

かやふり

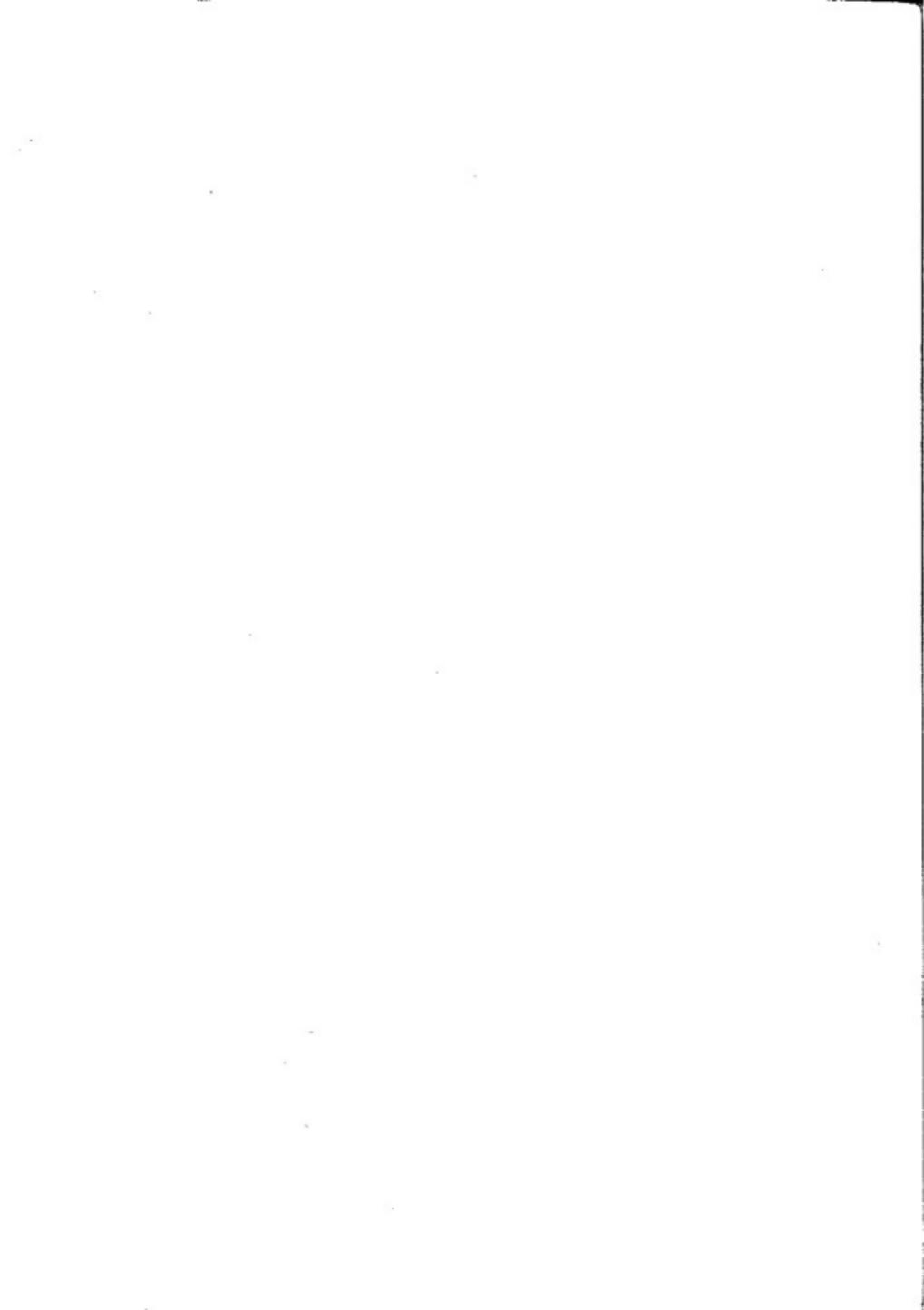
萱振遺跡発掘調査概要報告

市立八尾中学校体育館等建設工事に伴う調査(第2次調査)

府営八尾萱振第3期中層住宅新営工事に伴う調査(第3次調査)

1990年

(財)八尾市文化財調査研究会



かやふり
萱振遺跡発掘調査概要報告

市立八尾中学校体育館等建設工事に伴う調査(第2次調査)

府営八尾萱振第3期中層住宅新営工事に伴う調査(第3次調査)

1990年

(財)八尾市文化財調査研究会

はじめに

八尾市は、河内平野の中央に位置しています。この平野は、北流する大和川の豊かな水と肥沃な土壤に恵まれた地域であり、このような土地柄を背景に、古来より先人の活動の舞台として、重要な役割を果たしてきたところであります。

当市は、近年の市街化による開発で宅地化が進み、近代都市へ変貌しつつある今日、八尾市文化財調査研究会ではこれら先人の足跡である貴重な文化遺産を後世にながく伝えるため、調査を実施し、埋蔵文化財の実態把握と保存に努めていく次第であります。

今回、昭和60年度に実施しました萱振遺跡（第2・3次調査）の調査が完了し、報告書を刊行する運びとなりました。

本書が今後、学問の発展と文化財保護への啓発に広く活用されることを願うものであります。

最後に、この発掘調査に対してご協力いただきました関係機関の皆様に対して心から厚くお礼申し上げます。

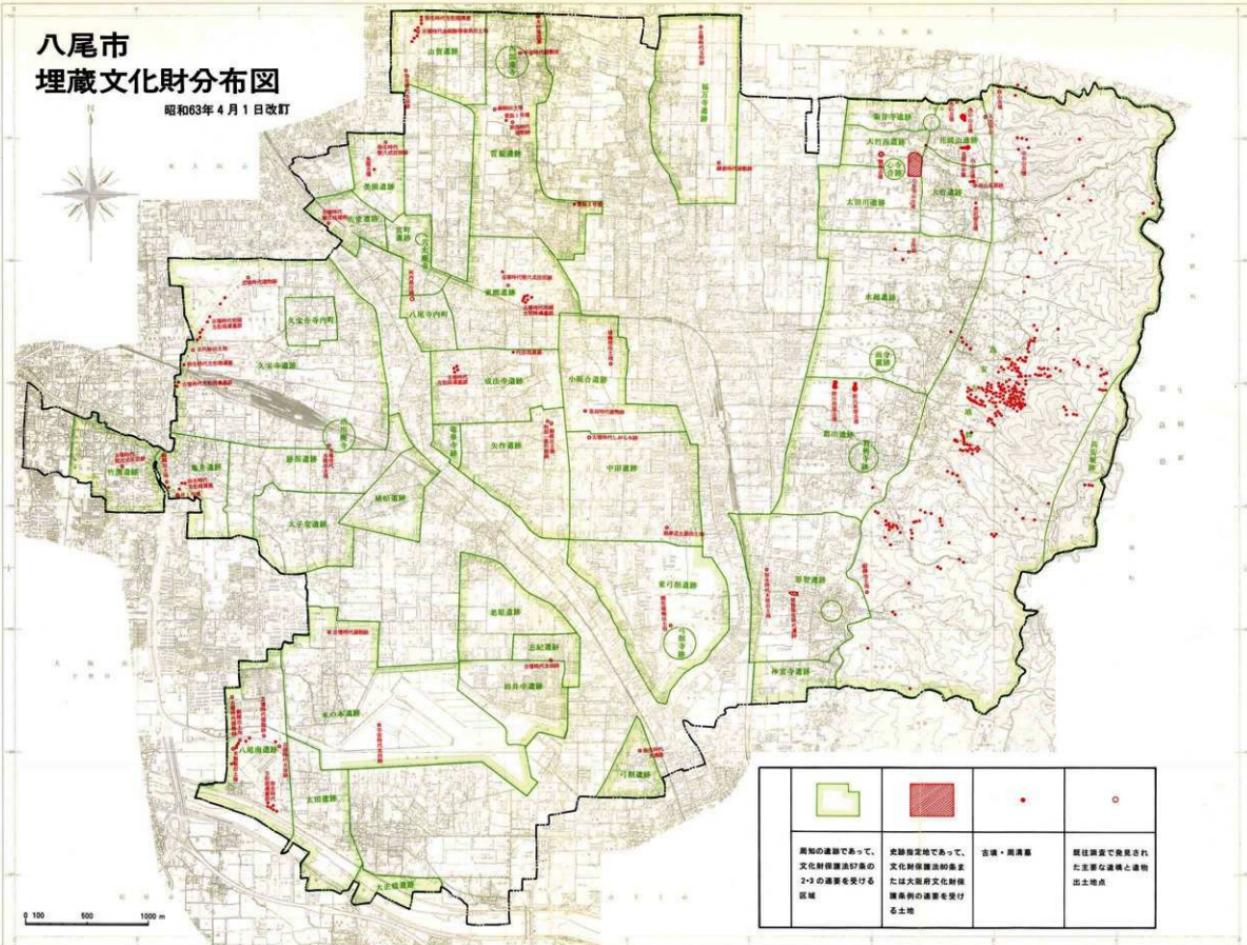
平成2年12月

財団法人 八尾市文化財調査研究会

理事長 福島 孝

八尾市 埋蔵文化財分布図

昭和63年4月1日改訂



例 言

1、本書は、八尾市緑ヶ丘1丁目17において実施した市立八尾中学校体育館等建設工事に伴う
萱振遺跡の発掘調査（第2次調査と呼称する）と、同市緑ヶ丘2丁目1において実施した府
営八尾萱振第3期中層住宅新営工事に伴う同遺跡の発掘調査（第3次調査と呼称する）の概
要報告である。

1、本書で報告する萱振遺跡の第2次調査は、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市の委
託を受けて実施したもので、第3次調査は、同研究会が大阪府の委託を受けて実施したもの
である。

1、第2次調査の調査期間は、昭和60年5月24日から同年7月27日で、第3次調査は、昭和60
年11月7日から昭和61年4月30日である。

1、現地調査は、西村公助を担当として実施し、第2次調査においては、太田修二、萩原剛良
・森山憲一、前田芳嗣、武田正泰、益木浩、小林博司、勝村嘉文、後藤敏夫、中岡由佳、坂口
真千子が、第3次調査においては、中野慶太、森山憲一、太田修二、萩原剛良、松村一、中
川暁、森茂治、武田正泰、松岡利行、柏本幸寿、高橋健史、西町達也、南呻良彦、溝口敬一
・後藤敏夫が参加した。

1、内業整理は、現地調査終了後、まとめて平成元年3月31日まで実施した。また内業整理に
は上記の他、小林智恵、岡田瑞穂、田村文、高橋尚子、小西博樹、八元聰志、正木洋二、北
原清子、中西明美が参加した。

1、本書に関わる業務は、遺物実測—西村・高橋（尚）・小西・八元・柏本、図面レイアウト
—西村、トレース—西村、遺物写真—西村が担当した。

1、本書の執筆は、西村が担当した。

凡 例

1、実測図の縮尺率は、1:40・1:80・1:100・1:200・1:500・1:1000・1:5000
である。また遺物は、1:2・1:4とした。

1、遺物の実測図は、第2次調査と第3次調査に区別して掲載した。

1、遺構実測図の方向は全て磁北を示している。

本文目次

例言

凡例

第1章 調査に至る経過.....	1
第2章 地理・歴史的環境.....	3
第3章 調査概要.....	6
第1節 第2次調査.....	6
1 調査の方法.....	6
2 基本層序.....	6
3 検出遺構と出土遺物.....	11
1) 第1調査区.....	12
2) 第2調査区.....	12
3) 第3調査区.....	17
4) 第4調査区.....	22
第2節 第3次調査.....	30
1 調査の方法.....	30
2 基本層序.....	30
3 検出遺構と出土遺物.....	31
1) 第1調査区.....	35
2) 第2調査区.....	47
3) 第3調査区.....	53
第4章 山土遺物観察表.....	55
第5章 まとめ.....	79

挿図目次

第1図 調査地周辺図.....	1
第2図 第2次調査区割図.....	(折込)
第3図 同上 遺構平面図.....	(折込)

第4図	第2次調査基本層序模式図	11
第5図	同 上 第2調査区 S D-101半断面図	(折込)
第6図	同 上 第2調査区 S D-101出土遺物実測図	15
第7図	同 上 第2調査区 S D-101・S D-201出土遺物実測図	16
第8図	同 上 第2調査区包含層出土遺物実測図	17
第9図	同 上 第3調査区 S K-101半断面図	17
第10図	同 上 第3調査区 S K-201半断面図	18
第11図	同 上 第3調査区 S K-202半断面図	19
第12図	同 上 第3調査区 S K-203半断面図	19
第13図	同 上 第3調査区 S K-204半断面図	20
第14図	第2次調査第3調査区 S K-101・S D-102・S K-201・S K-202・ S K-203・S K-204・S D-202出土遺物実測図	20
第15図	第2次調査第3調査区包含層出土遺物実測図	21
第16図	同 上 第4調査区 S K-102半断面図	22
第17図	同 上 第4調査区 S K-102・S P-137、包含層出土遺物実測図	28
第18図	同 上 第4調査区包含層出土遺物実測図	29
第19図	第3次調査基本層序模式図	31
第20図	同 上 地区割図	32
第21図	同 上 造構平面図	(折込)
第22図	同 上 第1調査区 S D-101・S D-103・S D-107出土遺物実測図	36
第23図	同 上 第1調査区 S D-107半断面図	(折込)
第24図	同 上 第1調査区 S D-209・S D-222出土遺物実測図	41
第25図	同 上 第1調査区包含層出土遺物実測図	44
第26図	同 上 第2調査区 S X-101半断面図	(折込)
第27図	同 上 第2調査区 S X-101埋葬施設1半断面図	47
第28図	同 上 第2調査区 S X-101出土遺物実測図1	48
第29図	第3次調査 第2調査区 S X-101出土遺物実測図2	49
第30図	同 上 第2調査区 S X-101填丘内出土遺物実測図	50
第31図	同 上 第2調査区 S D-111・N R-101出土遺物実測図	51
第32図	同 上 第2調査区 S E-201半断面図	52
第33図	同 上 第2調査区 S E-201出土遺物実測図	52
第34図	同 上 第2調査区 S E-202半断面図	52

図版目次

- 図版 一 第2次調査 第1調査区全景（西から）第2調査区第1調査面全景（南から）
- 図版 二 同 上 第2調査区 S D-101遺物出土状況（南から）第2調査区、第2調査面全景（南から）
- 図版 三 同 上 第3調査区第1調査面全景（南から）第3調査区 S K-101（南から）
- 図版 四 同 上 第3調査区第2調査面全景（南から）第4調査区全景（東から）
- 図版 五 第2次調査 第4調査区 S P-137（東から）第4調査区 S P-137遺物出土状況（東から）
- 図版 六 同 上 第2調査区 S D-101出土遺物（1・3・4・5・6・7・9・11）
- 図版 七 同 上 第2調査区 S D-101・S D-201出土遺物
- 図版 八 同 上 第2調査区包含層 第3調査区 S K-101・S K-203・S D-202出土遺物
- 図版 九 同 上 第3調査区包含層出土遺物（47・53・54・56・57・61・65・69）
- 図版 ○ 同 上 第4調査区 S K-102・S P-137・包含層出土遺物
- 図版一一 同 上 第4調査区包含層出土遺物（90・91・92・95・97・98・99・103）
- 図版一二 第3次調査 第1調査区第1調査面全景
- 図版一二三 同 上 第2調査区・第3調査区第1調査面全景
- 図版一四 同 上 第1調査区第2調査面全景1（南から）・2（南から）
- 図版一五 同 上 第1調査区第2調査面全景3（北から）第1調査面 S D-107
- 図版一六 同 上 第2調査区 S X-101全景1・2（北から）
- 図版一七 第3次調査 第2調査区 S X-101埋葬施設1（西から）遺物出土状況（東から）
- 図版一八 同 上 第2調査区 S X-101埋葬施設2（南から）S X-101墳丘内遺物出土状況（西から）
- 図版一九 同 上 第2調査区第2調査面全景1・2（南から）
- 図版二〇 同 上 第2調査区第2調査面全景3（南から）第2調査区 S E-101（東から）
- 図版二一 同 上 第2調査区 S E-102（南から）第3調査区第2調査面全景（東から）
- 図版二二 同 上 第1調査区 S D-107 包含層出土遺物

- 図版二三 第3次調査 第2調査区 S X-101 (30・31・32・33・34・35・36)
- 図版二四 同 上 第2調査区 S X-101 (37・38・39・40・41・42)
- 図版二五 同 上 第2調査区填丘内 N R-101 包含層出土遺物
- 図版二六 同 上 第2調査区包含層出土遺物

第1章 調査に至る経過

当調査地の位置している八尾市緑ヶ丘1丁目は、萱振遺跡推定地範囲の南部に位置している。今回の調査地が存在している当遺跡の南部地域一帯には、現在の八尾市緑ヶ丘を中心とした地域に八尾競馬場が昭和5年から昭和15年にかけて置かれていた。この競馬場が廃止されたあと、昭和18年には、競馬場の跡地で防空壕を作っており、この防空壕を作る時に、古墳時代中期に比定される子持ち勾玉と若干の土師器が出土したといわれているが、出土地点・出土土層等の詳細は不明であった。^{註1}その後昭和57年に至るまでは、当遺跡内では埋蔵文化財の発掘調査は行われておらず、遺跡の実態は明らかにされていなかった。

昭和57年には、八尾市緑ヶ丘で、大阪府教育委員会が府営八尾萱振第1期中層住宅新営工事に伴う発掘調査を実施しており、この調査では、古墳時代前期（布留式期）の土器棺墓群を主とした遺構・遺物が検出され、遺跡の実態が明らかになった。また、昭和58年度にも大阪府教育委員会では府営八尾萱振第2期中層住宅新営工事に伴う発掘調査を実施しており、その結果、^{註2}^{註3}



第1図 調査地周辺図

弥生時代中期の方形周溝墓状遺構を検出している。この結果から当遺跡の南部地域での生活の場は弥生時代中期にまで遡ることが確認されている。

昭和59年3月に八尾市教育委員会施設課から八尾市緑ヶ丘1丁目17の八尾中学校内において校舎増築・体育館建設する旨の計画書が八尾市教育委員会文化財室に提出された。八尾市教育委員会では、当該地が遺跡推定範囲内であるため、試掘調査が必要であると判断した。昭和59年4月5・6日に同建設予定地で試掘調査を行なった結果、古墳時代の溝と古墳時代の遺物を含んでいる層が確認された。そのため、基礎工事によって遺構が破壊されることが予想される部分については、記録保存に必要な資料を作成する目的で、事前に発掘調査を実施することになった。

発掘調査は八尾市教育委員会文化財室、同施設課、及び財團法人八尾市文化財調査研究会の三者間の協定により当研究会が主体となって実施することになった。発掘調査の期間は昭和60年5月24日から同年8月10日までである。(第2次調査)

また、昭和60年7月に大阪府建築部住宅建設課から八尾市緑ヶ丘2丁目1~4において府営住宅建設する旨の計画書が八尾市教育委員会文化財室に提出された。八尾市教育委員会では、当該地が遺跡推定範囲内にあるため、試掘調査が必要であると判断した。昭和60年8月13日に同建設予定地で試掘調査を行なった結果、古墳時代の遺物包含層が確認された。そのため、基礎工事によって遺構が破壊されることが予想される部分については、記録保存に必要な資料を作成する目的で、事前に発掘調査を実施することになった。

発掘調査は八尾市教育委員会文化財室、同施設課、及び財團法人八尾市文化財調査研究会の二者間の協定により当研究会が主体となって実施することになった。発掘調査の期間は昭和60年11月5日から昭和61年4月30日までである。(第3次調査)

註1 金谷克己「河内八尾発見の子持勾玉」『若木考古』第62号 1962

註2 大阪府教育委員会「豈張遺跡発掘調査概要・I」一八尾市緑ヶ丘2丁目所在—1983

註3 大阪府教育委員会「豈張遺跡現地説明会資料」

第2章 地理・歴史的環境

壹振遺跡は、八尾市壹振町、緑ヶ丘、長池町、桙町一帯に存在する遺跡である。

当遺跡は、河内平野内に位置している。この平野内には、長瀬川、玉出川、楠根川を中心とする大小河川が北または北西に流れしており、これらの大小河川の沖積作用による上砂の堆積は平野を形成する上において多大な影響を及ぼしている。堆積により形成された微高地や自然堤防上には居住域や墓域が点在し、低湿地には主に水田を中心とした生産域が存在していた。当遺跡の周辺には東に玉出川が、西に楠根川が流れおり、この両河川の近くには多くの遺跡が存在している。当遺跡の周辺には、東に上之島遺跡^{註1}、西に美園遺跡^{註2}、友井東遺跡^{註3}、南に東郷遺跡^{註4}、小阪合遺跡^{註5}、北に山賀遺跡^{註6}がある。以下、壹振遺跡とその周辺に存在している遺跡について概観したい。

当遺跡の南部地域に人間が定住し始めたのは、弥生時代の中期頃までであることが現在までの調査で確認されている。当遺跡では、この時期の方形周溝墓状造構を検出している。また、^{註7}当遺跡内の北側一帯には、この時期の生産域が広がっていることがわかった。この他中期に^{註8}は、前期から続く山賀遺跡で居住域と墓域が検出されており、美園遺跡でも居住域が検出^{註9}されている。弥生時代後期には、山賀遺跡では前時期まで続いている居住域が消滅し、生産域が^{註10}広がっている事が分った。また、当遺跡内の北側や小阪合遺跡では、同時期の居住域が検出^{註11}されている。同時期後半から古墳時代前期（庄内式期）にかけては、美園遺跡、小阪合遺跡で居^{註12}住域が検出されており、当遺跡の北部地域、成法寺遺跡、友井東遺跡では墓域が検出^{註13}されてい^{註14}る。また東郷遺跡では居住域と墓域を検出している。^{註15}

古墳時代前期（布留式期）には、美園遺跡・小阪合遺跡では引き続き居住域が存在している。^{註16}同時代前半には、当遺跡の北部や美園遺跡で古墳が検出されており、友井東遺跡では中期の^{註17}古墳が検出されている。また、山賀遺跡でも後期の古墳が検出されている。これらの古墳は河^{註18}内平野のはば中央部の沖積地上で検出しており、この沖積地における古墳時代の社会的構造を考える上で、重要な資料を得たといえよう。後期には成法寺遺跡で居住域が検出されている。^{註19}この他、友井東遺跡では、前時期に作られた古墳を破壊し、居住域を拡大していることがわかっている。^{註20}

奈良時代には当遺跡を含めた地域一帯で、条里地割を前提とした開発が行われるようになつた。友井東遺跡では方格地割の水田が検出している。また美園遺跡では、7世紀後半の水田が^{註21}検出されており、この時期以降平安時代まで水田が広がっていることが確認されている。この^{註22}時代には寺院の建立が活発に行なわれるようになる。当遺跡の北側に隣接している西郡廃寺跡

は、この時代に創建されたと推定されており、これを要付ける資料として、当遺跡内での昭和59年度の調査で、当廃寺のものと思われる軒丸瓦や軒平瓦が出土している。^{註28}

鎌倉時代には、当遺跡で居住域が検出されている。美園遺跡でもこの時期の造構を検出して^{註29}おり、条里の地割りに則った水路も検出している。友井東遺跡では、坪境付近に井戸^{註30}や溜池が作られ、坪境に沿った水路が充備され、水田経営が一段と本格化してきたと言われている。^{註31}

室町時代の当遺跡周辺では、前時代と変りなく水田が広がっていたようである。この時代の美園遺跡では、現在とはほ重なった坪境の大畦畔を検出している。また、この時代以降の当遺跡^{註32}の所在している萱振地域一帯には、恵光寺を中心とした環境を巡らせた集落があったといわれており、現在でも当時のものと思われる環壕を見ることができる。また、恵光寺は現在も存在^{註33}していることから、当時から現在に至るまでの萱振地域一帯は、ほぼ同じ場所を居住域としているといえよう。戦国の時期の当遺跡一帯、特に恵光寺を中心とする萱振地域に住む集団は戦国大名の支配を拒否し、戦いが行われた。この時期に恵光寺は焼き払われている。^{註34}

江戸時代以降も、当遺跡周辺では水田が広がっており、当遺跡では前時代から引き続き、集落が営まれている。1704年の大和川付け替え以降は、旧大和川の主流とされていた河川の、特に自然堤防^{註35}を中心とした新田開発が盛んに行われるようになった。また、綿花の栽培も活発に行われるようになり、山賀遺跡では、主に綿を栽培したと考えられる植き揚げ田を検出して^{註36}いる。

註1 (財)八尾市文化財調査研究会「上之島・福万寺遺跡!『西林』57年度における埋蔵文化財発掘調査」—その成果と概要—1983

註2 (財)大阪文化財センター『美園』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

註3 (財)大阪文化財センター『友井東』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

註4 八尾市教育委員会「東郷遺跡」八尾市埋蔵文化財発掘調査概要1980・1981年度』1983

註5 (財)八尾市文化財調査研究会『小阪合遺跡』八尾都市計画南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査—1988

註6 (財)大阪文化財センター『山賀遺跡』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

註7 大阪府教育委員会「萱振遺跡現地説明会資料」1983

註8 八尾市教育委員会「萱振遺跡調査速報『八尾市文化財紀要』1985・3

註9 前掲註6

註10 前掲註3

註11 前掲註6

註12 (財)八尾市文化財調査研究会『小阪合遺跡(第1次調査)』八尾都市計画南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査—1986

註13 前掲註2

註14 前掲註5

註15 前掲註8

註16 八尾市教育委員会「成法寺遺跡」八尾市光南町1丁目29番地の調査—1983

註17 前掲註3

註18 前掲註4

- 註19 前掲註2
- 註20 前掲註5
- 註21 前掲註2
- 註22 前掲註3
- 註23 前掲註6
- 註24 前掲註16
- 註25 前掲註3
- 註26 前掲註3
- 註27 前掲註2
- 註28 (財)八尾市文化財調査研究会「豊原A遺跡(第1次調査)」[八尾市埋蔵文化財発掘調査摘要] 昭和61年度 1987
- 註29 前掲註8
- 註30 前掲註2
- 註31 前掲註3
- 註32 前掲註2
- 註33 八尾市立図書館『市民のための八尾の歴史』1986
- 註34 前掲註33
- 註35 前掲註6

第3章 調査概要

第1節 第2次調査

1. 調査の方法

体育馆等建築予定地に4箇所の調査区を設定し、第1調査区、第2調査区、第3調査区、第4調査区と呼称した。調査に際しては、八尾市教育委員会文化財室の試掘調査に基づいて、現地表下0.5~0.8mまでの土層を機械により排除し、以下の各層は層理に従って人力掘削を実施して遺構・遺物の検出に努めた。その結果、第1調査区では遺構は検出されなかったものの、第2調査区・第3調査区では古墳時代前期と鎌倉時代の二時期にわたる遺構を検出し、第4調査区では古墳時代前期の遺構を検出した。

調査地の地区割は、第4調査区の南東角を基準点とし、その点から第4調査区の東側の延長線を南北線とし、基準点から北へ75m延長させて南北の基準線とした。また東西については、基準点から西に135m延長させ、第1~4調査区を覆う東西135m南北75mの範囲に渡って設定した。この範囲の中を5m四方の小地区に区画した。各地区を区画する5mごとのラインは東西は、南端と起点にアルファベット(a~o)で、表わし南北は東端を起点として数字(1~27)で表わした。各地区の表示については、一区画の北西隅で交差する2線を用い1a~27o地区とした。

2. 基本層序

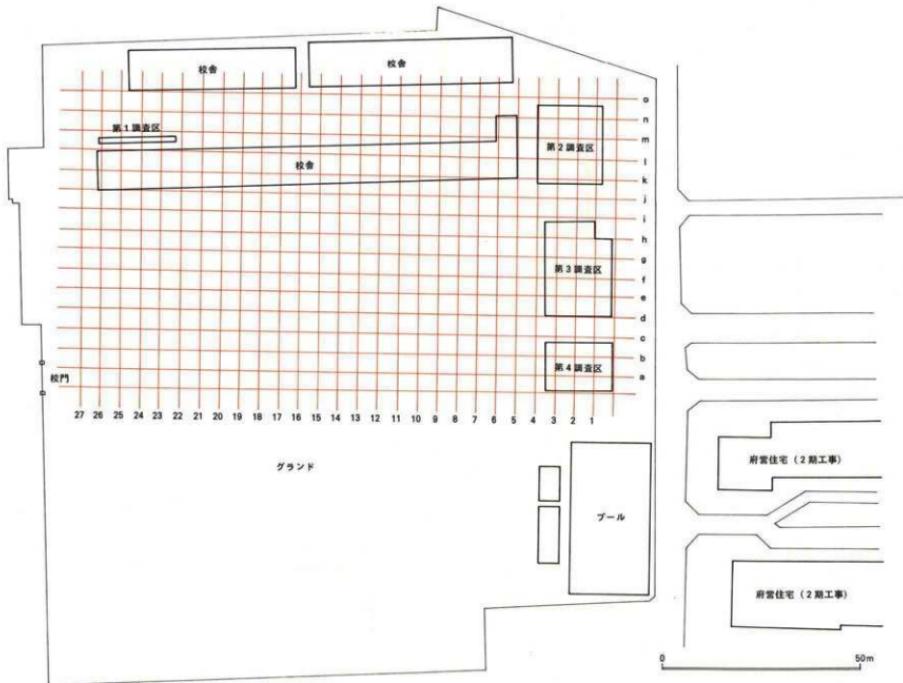
調査地内の第4調査区では、古墳時代前期の遺構検出面が第3調査区に比べ0.64m上がっており、第1~3調査区で確認された弥生時代後期~奈良時代の遺物が包含されている層(第4層)は堆積していなかった。また第3調査区では第2層と第4層の間に無遺物層である第3層を確認している。このほか、第1調査区では第2層が堆積していなかった。各調査区では多少の堆積のちがいが認められたものここでは各調査区において普遍的に存在していた6層を基本の層序とすることにしたい。

第0層：盛土 層厚0.3~0.75m。調査区の全域でみられる。地表面の標高は6.6~7.0mである。

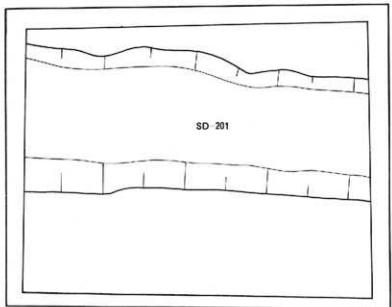
第1層：暗灰色~暗灰茶色疊混粘土 層厚0.2~0.35m。旧耕上

第2層：灰褐色細砂混粘土 层厚0.05~0.25m。第1・4調査区では認められなかった。第2・3調査区の層中からは鎌倉時代前期から末期に比定される遺物が極少量出土している。

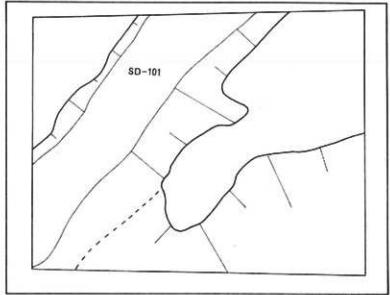
第3層：茶灰色細粗砂混粘土 层厚0.15m 第3調査区のみで確認した。粗砂を多量に含む



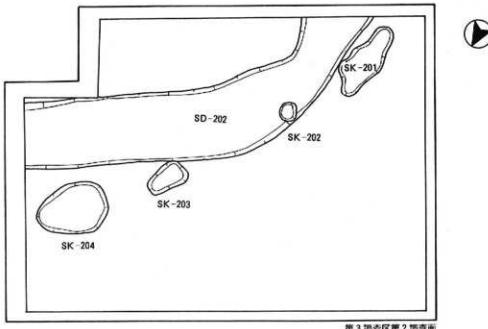
第2図 第2次調査地区割図 (17.5×22.5)



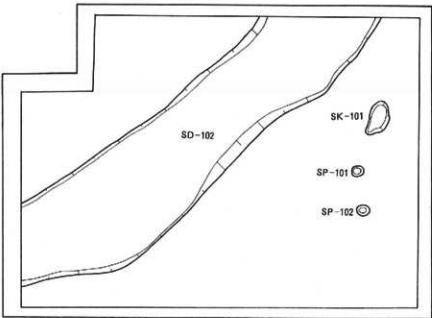
第2調查区第2湖盤面



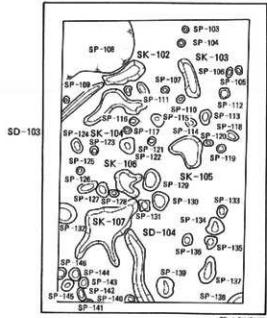
第2調査区第1湖盤面



第3調査区第2湖盤面



第3調査区第1湖盤面



第4調査区

0 10 20 m

第3図 第2次地質調査平面図

上層である。無遺物層である。

第4層：暗茶灰色～茶褐色シルト～細砂・混粘土 層厚0.15m。この層の上面は鎌倉時代の遺構検出面（第1調査面）である。上面の標高は5.7～5.8mを測る。なお第1調査区では遺構の検出はなかった。層中より弥生時代後期から奈良時代に比定される遺物が出土している。

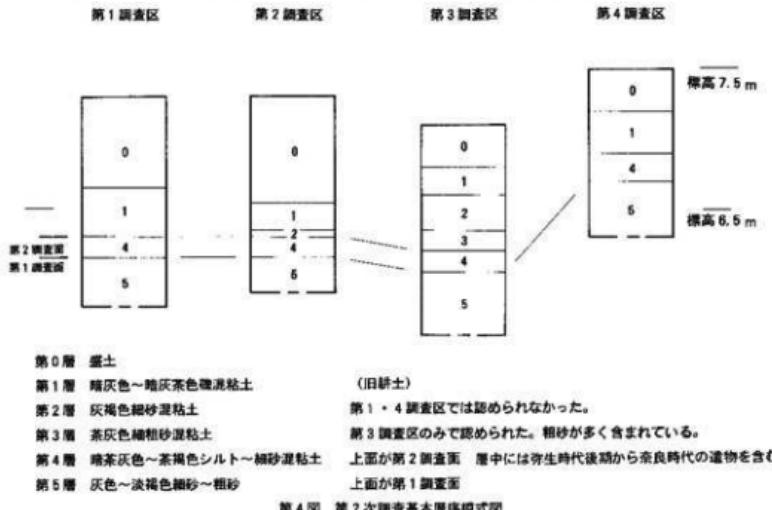
第5層：灰色～淡褐色細砂～粗砂 層厚0.45m以上 この層の上面は古墳時代前期の遺構検出面（第2調査面）である。上面の標高は5.55～6.2mを測る。

3. 検出遺構と出土遺物

第1調査区では、土師器、須恵器の細片が少量出土しているが、遺構の検出はなかった。第2調査区では、現地表下1.0m（標高5.8m）に存在する第4層上面で、溝1条（SD-201）を検出した。また現地表下1.15m（標高5.65m）に存在する第5層上面で、溝1条（SD-101）を検出した。第3調査区では、現地表下0.9m（標高5.7m）に存在する第4層上面で、土坑1基（SK-201～204）・溝1条（SD-202）を検出した。また現地表下1.05m（標高6.2m）に存在する第5層上面で土坑1基（SK-101）・溝1条（SD-102）・小穴2個（SP-101・102）を検出した。

第4調査区では、現地表下0.8m（標高6.2m）に存在する第5層上面で、土坑6基（SK-102～107）・溝2条（SD-103・104）・小穴44個（SP-103～146）を検出した。

以下、各調査区ごとに、検出遺構および出土遺物について概要を記す。



1) 第1調査区

この調査区の包含層からは、土師器・須恵器の細片が少量出土しており、第5層上面で遺構の検出に努めたが、遺構の検出はなかった。

2) 第2調査区

第1調査面

溝 (SD)

SD-101

調査区の北東側で検出した。南東一北西方向に伸びる溝で、幅6.2~8.4m、深さ0.5mを測る。溝の断面の形状は、右岸は急な角度で落込んでおり、左岸はゆるやかな傾斜をもっている。内部堆積土は上層から茶褐色細砂混粘土、茶褐色細砂混粘土、灰茶色細砂混粘土、灰茶色細砂、灰色細砂、灰色細砂混粘土、灰茶褐色細砂、淡灰色細砂、灰茶色粘土、暗灰色細砂混粘土である。溝内の茶褐色細砂混粘土層からは古墳時代前期〔布留式期〕の小型丸底壺(1~3)、ミニチュア壺(4)、高杯(5~14)、甕(15~21)が溝の左岸に密集した形で出土した。出土した遺物はいづれも完形および完形近くに復元可能なものが多くあった。このことは、現地点から溝の中へ投棄された可能性があると考えられる。出土遺物の小型丸底壺のうち(1~2)は体部外面にハケ目を施している。高杯は杯底部から口立たない屈曲をつけてゆるやかに広がる口縁部のもの(5~9)、杯底部から屈曲し口縁部に至るもの(11~13)がある。甕は、体部外面ハケ目のもの(15~17・21)、ナデのもの(18~20)がある。(15)は肩部にハケ原体による圧痕を施す。小型丸底壺の調整等から、溝内から出土した遺物は、古墳時代前期(布留式期でも新しい時期)に位置づけられる。

なお、このSD-101の北西側でSD-101に合流する溝を検出しているが、この溝の西岸は調査区外に至るため規格は不明である。

第2調査面

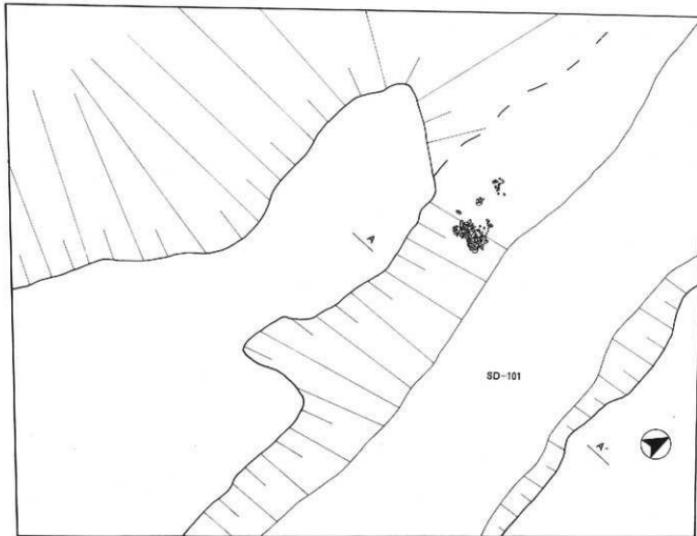
溝 (SD)

SD-201

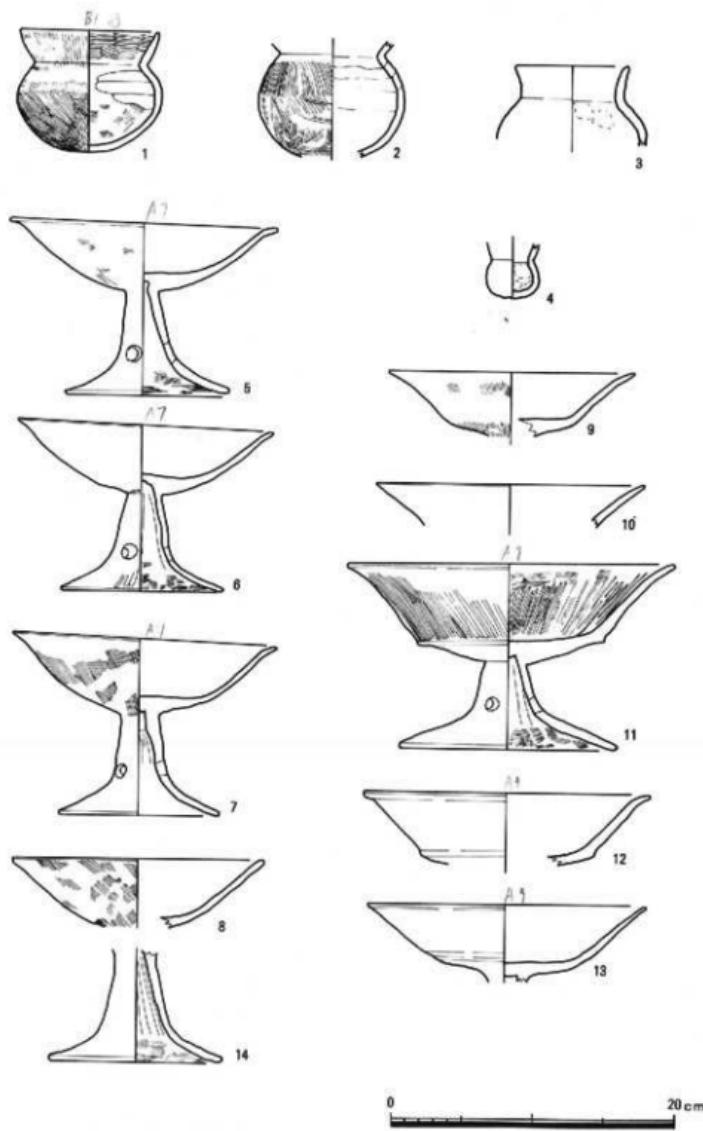
調査区のほぼ中央で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長19m、幅7.5m、深さ0.2mを測る。内部堆積土は灰茶色粗砂混粘質シルトの単一層である。溝内からは瓦器碗(22)のはか、土師器の細片が少量出土している。

包含層出土遺物

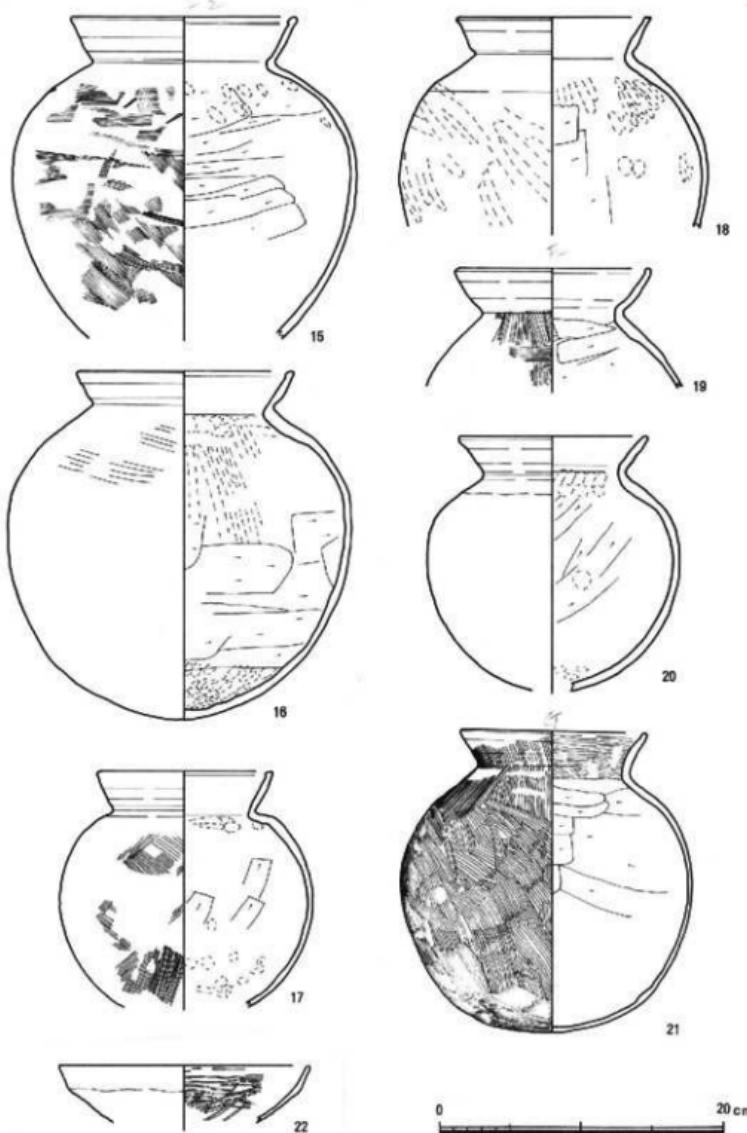
第2調査区では第4層から弥生時代後期の壺(23・24)、古墳時代前期〔庄内式期〕の甕(25)、〔布留式期〕の壺(26~27)、高杯(28~29)、甕(30~31)と、第2層から鎌倉時代前期の瓦器碗(32)が出土している。



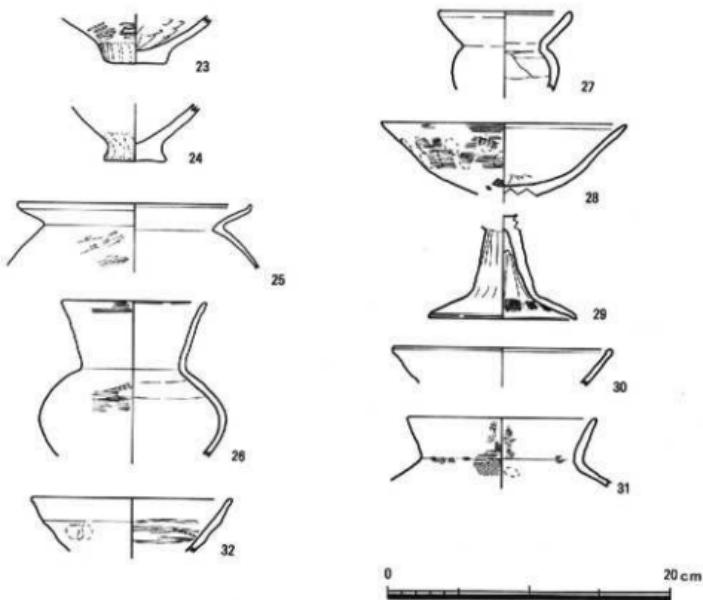
第5図 第2調査区 SD-101剖面図



第6図 第2調査区SD-101出土遺物実測図



第7圖 第2調查區SD-101・SD-201出土遺物實測圖



第8図 第2調査区包含着出土遺物実測図

3) 第3調査区

第1調査面

土坑（SK）

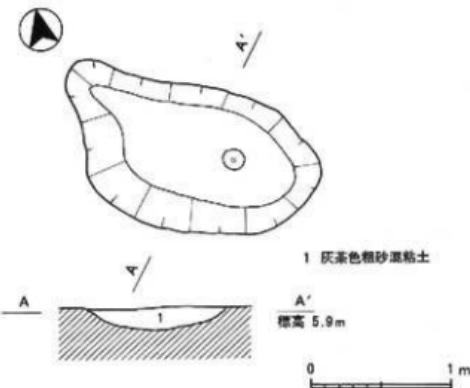
SK-101

調査区の南側で検出した土坑で、上面の形状は不定形を呈する。東西幅1.9m・南北幅1.0m・深さ0.08mを測る。内部堆積土は灰茶色粗砂混粘土で、土坑内からは土師器の高杯（33）が出土している。

溝（SD）

SD-102

調査区の北東で検出した。南北—北西方向に伸びる溝で、幅4.5~5.8m、深さ0.14mを測



第9図 第3調査区SK-101平面断面図

る。内部堆積土は上層から灰茶褐色細砂混粘土、灰色シルト混粘土である。溝内からは土師器の壺(34)・高杯(35)が出土している。

小穴(SP)

SP-101

SK-101の北西で検出した小穴で、上面の形状は南北方向に長い楕円形を呈する。東西幅0.5m、南北幅0.6m、深さ0.07mを測る。内部堆積土は茶灰色粗砂混粘土である。小穴からの遺物の出土はなかった。

SP-102

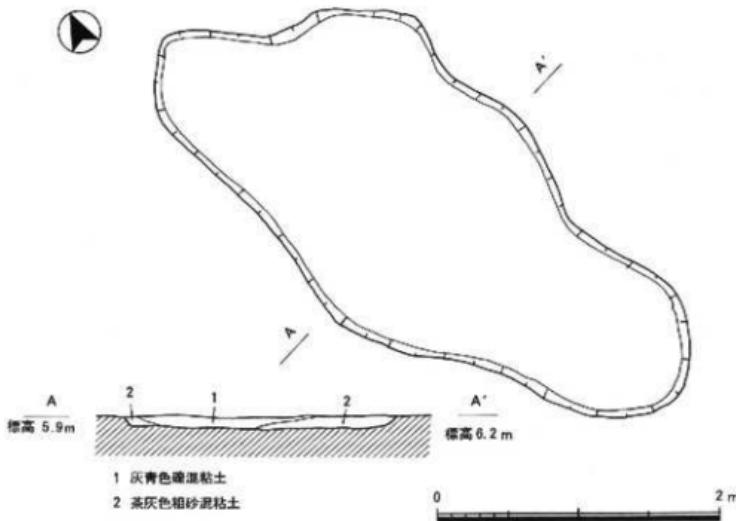
SP-101の西側で検出した小穴で、上面の形状は南北方向に長い楕円形を呈する。東西幅0.55m、南北幅0.6m、深さ0.08mを測る。内部堆積土は茶灰色粗砂混粘土である。小穴からの遺物の出土はなかった。

第2調査面

土坑(SK)

SK-201

調査区の南東側で検出した。上面の形状は不定形を呈する。東西幅4.3m、南北幅1.9m、深さ0.2mを測る。内部堆積土は上層から灰青色疊混粘土、茶灰色粗砂混粘土である。土坑内



第10図 第3調査区SK-201平面図

からは土師器小皿（36）が出土している。

SK-202

SK-201の北側で検出した。上面の形状は方形を呈する。東西幅1.0m、南北幅0.8m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は上層から灰青色粗砂混粘土、灰色粗砂混粘土である。土坑内からは土師器の小皿（37）、瓦器の小皿（38）の破片が出土している。

SK-203

SK-202の北側で検出した。上面の形状は椭円形を呈する。東西幅1.4m、南北幅2.2m、深さ0.15mを測る。内部堆積土は上層から灰色疊混粘土、灰茶色粗砂混粘土である。土坑内からは瓦器の椀（39）が出土している。

SK-204

SK-203の北側で検出した。上面の形状は椭円形を呈する。東西幅2.8m、南北幅3.95m、深さ0.3mを測る。内部堆積土は上層から灰茶色細砂混粘土、茶灰色シルト混粘土である。土坑内からは土師器の中皿（40）、瓦器の小皿（41）が出土している。

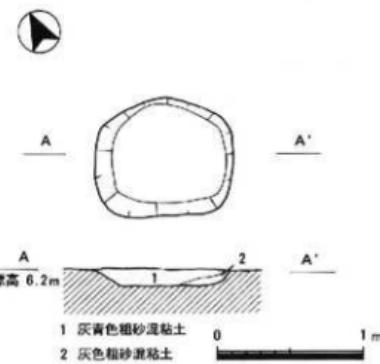
溝（SD）

SD-202

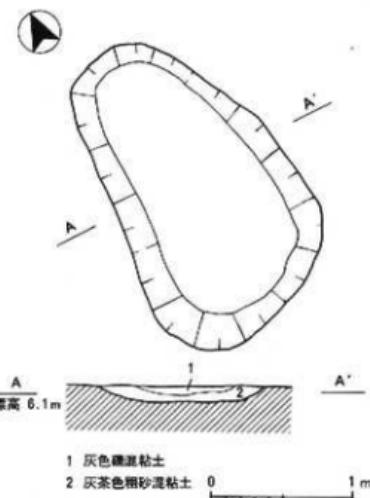
調査区の北東部で検出した。南東—北西方向に伸び、幅3.7～2.5m、深さ0.2mを測る。内部堆積土は茶灰色細砂混粘土、灰茶色シルトである。溝内からは瓦器の椀（42・43・44）が出土している。

包含層出土遺物

第3調査区では、第4層から弥生時代後期の壺（45）・台付鉢（46）・高杯（47）・壺（48～53）・古墳時代前期（庄内式期）の甕（54）・（布留式期）の壺（55～57）・高杯（58・59）・壺

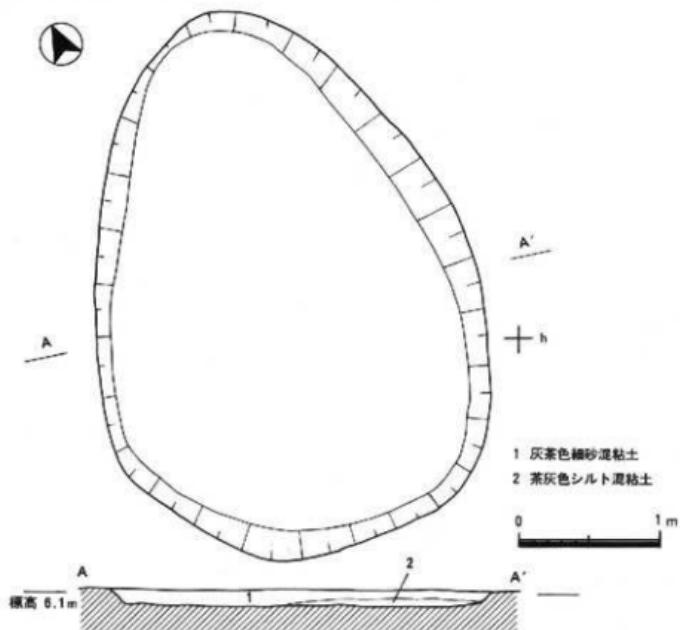


第11図 第3調査区SK-202平面図

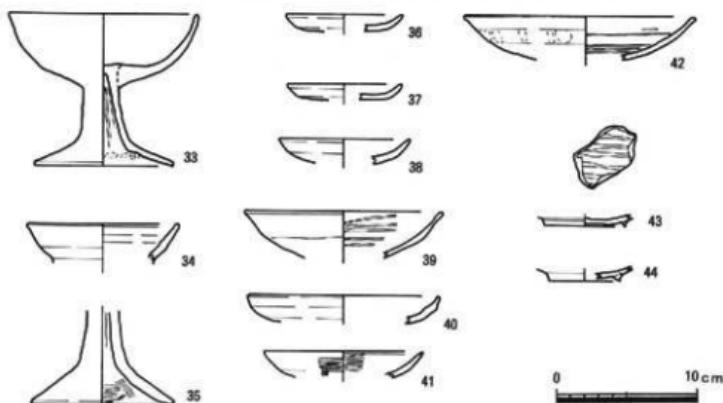


第12図 SK-203平面図

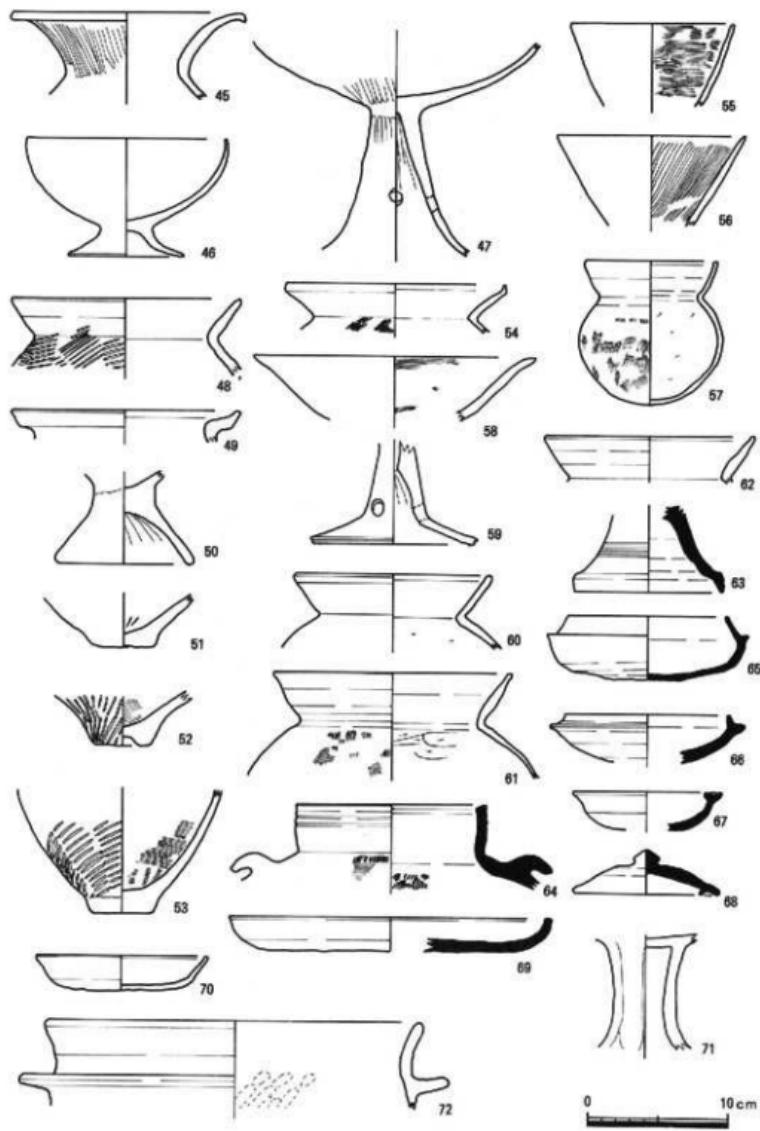
(60~62)・占墳時代中期の須恵器高杯 (63)・壺 (64)・杯身 (65~67)・杯蓋 (68)・奈良時代の須恵器杯 (69)・土師器皿 (70)・高杯 (71)・羽釜 (72) が出土している。



第13図 第3調査区SK-204平面面図



第14図 第3調査区SK-101, SD-102, SK-201, SK-202, SK-203, SK-204, SD-202出土遺物実測図



第15圖 第3調查區包含層出土遺物實測圖

4) 第4調査区

土坑 (SK)

SK-102

調査区の北東側で検出した土坑で、上面の形状は南北方向に長い楕円形を呈する。東西幅2.2m、南北幅0.6m、深さ0.13mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘質細砂である。溝内からは、古墳時代前期〔布留式期〕の壺(73)、甕(74・75)が出土している。

SK-103

SK-102の南側で検出した。上面の形状は東西方向に長い楕円形を呈する。東西幅2.2m、南北幅0.6m、深さ0.15mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘質細砂である。土坑内からの遺物の出土はなかった。

SK-104

SK-102の北側で検出した。上面の形状は不定形を呈する。東西幅1.0m、南北幅3.5m、深さ0.12mを測る。内部堆積土は茶灰色疊混粘土である。土坑内からの遺物の出土はなかった。

SK-105

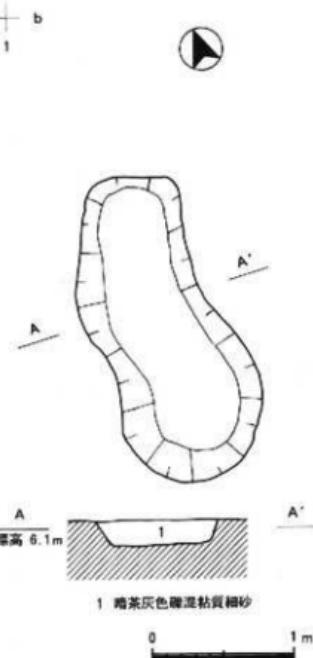
SK-103の北側で検出した。上面の形状は不定形を呈する。東西幅1.7m、南北幅1.2m、深さ0.15mを測る。内部堆積土は淡茶灰色細砂疊混粘土である。土坑内からの遺物の出土はなかった。

SK-106

SK-104の西側で検出した。上面の形状は不定形を呈する。東西幅1.4m、南北幅1.5m、深さ0.16mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混細砂である。土坑内からの遺物の出土はなかった。

SK-107

SK-106の西側で検出した。上面の形状は不定形を呈する。東西幅3.5m、南北幅4.5m、深さ0.3mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土である。土坑内からの遺物の出土はなかった。



第16図 第4調査区SK-102断面図

溝（SD）

SD-103

調査区の北東部で検出した。南東一北西方向に伸びる溝で、検出長3.0m、幅0.45m、深さ0.35mを測る。内部堆積土は灰色礫混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-104

調査区の西部で検出した。東西方向に伸びる溝で、検出長4.2m・幅0.65m・深さ0.16mを測る。内部堆積土は灰色礫混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

小穴（SP）

SP-103

調査区の東側で検出した円形の小穴で、径0.25m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-104

SP-103の西側で検出した円形の小穴で、径0.3m、深さ0.04mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-105

調査区の南東側で検出した円形の小穴で、径0.3m、深さ0.07mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-106

SP-105の北側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西0.4m、南北0.3m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-107

SK-103の北側で検出した円形の小穴で、径0.35m、深さ0.07mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-108

SK-104の東側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西0.55m、南北0.35m、深さ0.12mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-109

SK-103の北側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西0.4m、南北0.3m、深さ0.08mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-110

SK-103の北側で検出した南北方向に長い楕円形の小穴で、東西0.4m、南北0.45m、深さ0.09mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-111

SK-102の西側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西0.65m、南北0.4m、深さ0.12mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-112

SP-106の西側で検出した円形の小穴で、径0.55m、深さ0.08mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-113

SP-112の西側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西0.7m、南北0.6m、深さ0.08mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-114

SP-113の北側で検出した円形の小穴で、径0.5m、深さ0.12mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-115

SP-114の北側で検出した円形の小穴で、径0.65m、深さ0.26mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-116

SP-115の北側で検出した円形の小穴で、径0.45m、深さ0.13mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-117

SP-116の西側で検出した南北方向に長い楕円形の小穴で、東西0.4m、南北0.2m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-118

SP-112の西側で検出した南北方向に長い楕円形の小穴で、東西0.45m、南北0.6m、深さ0.11mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-119

SP-118の西側で検出した円形の小穴で、径0.5m、深さ0.15mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-120

SK-105の南側で検出した南北方向に長い楕円形の小穴で、東西0.25m、南北0.4m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-121

SK-105の北側で検出した円形の小穴で、径0.45m、深さ0.12mを測る。内部堆積土は暗

茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-122

SP-117の西側で検出した東西方に長い楕円形の小穴で東西0.8m、南北0.7m、深さ0.23mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-123

SP-122の北側で検出した円形の小穴で、径0.23m、深さ0.15mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-124

SP-123の北側で検出した東西方に長い楕円形の小穴で、東西0.8m、南北0.45m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-125

SP-124の西側で検出した円形の小穴で、径0.45m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-126

SP-123の北側で検出した東西方に長い楕円形の小穴で、東西0.8m、南北0.45m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-127

SP-126の南側で検出した東西方に長い楕円形の小穴で、東西0.65m、南北0.45m、深さ0.16mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-128

SP-127の南側で検出した円形の小穴で、径0.4m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-129

SP-106の南側で検出した東西方に長い楕円形の小穴で、東西1.1m、南北0.45m、深さ0.15mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-130

SP-129の西側で検出した円形の小穴で、径0.8m、深さ0.13mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-131

SP-130の南側で検出した東西方に長い楕円形の小穴で、東西1.1m、南北0.8m、深さ0.15mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-132

SP-107の北側で検出した円形の小穴で、径1.0m、深さ0.3mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-133

SP-130の南側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西0.6m、南北0.5m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-134

SP-133の西側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西1.0m、南北0.7m、深さ0.12mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-135

SP-134の西側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西0.7m、南北0.5m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-136

SP-135の北側で検出した円形の小穴で、径0.55m、深さ0.11mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-137

SP-135の西側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西0.9m、南北0.5m、深さ0.16mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からは古墳時代前期の壺(76)が出土している。

SP-138

調査区の南西隅で検出した。上面の形状および規模は調査区外へ至るため不明である。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-139

SP-104の南側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西0.1m、南北0.75m、深さ0.25mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-140

SP-104の北側で検出した円形の小穴で、径0.5m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-141

SP-140の北側で検出した。上面の形状および規模は調査区外へ至るため不明である。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-142

SP-141の東側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西0.75m、南北0.5m、深

さ0.1mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-143

SP-142の東側で検出した円形の小穴で、径0.55m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-144

SP-143の北東側で検出した円形の小穴で、径0.7m、深さ0.15mも測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-145

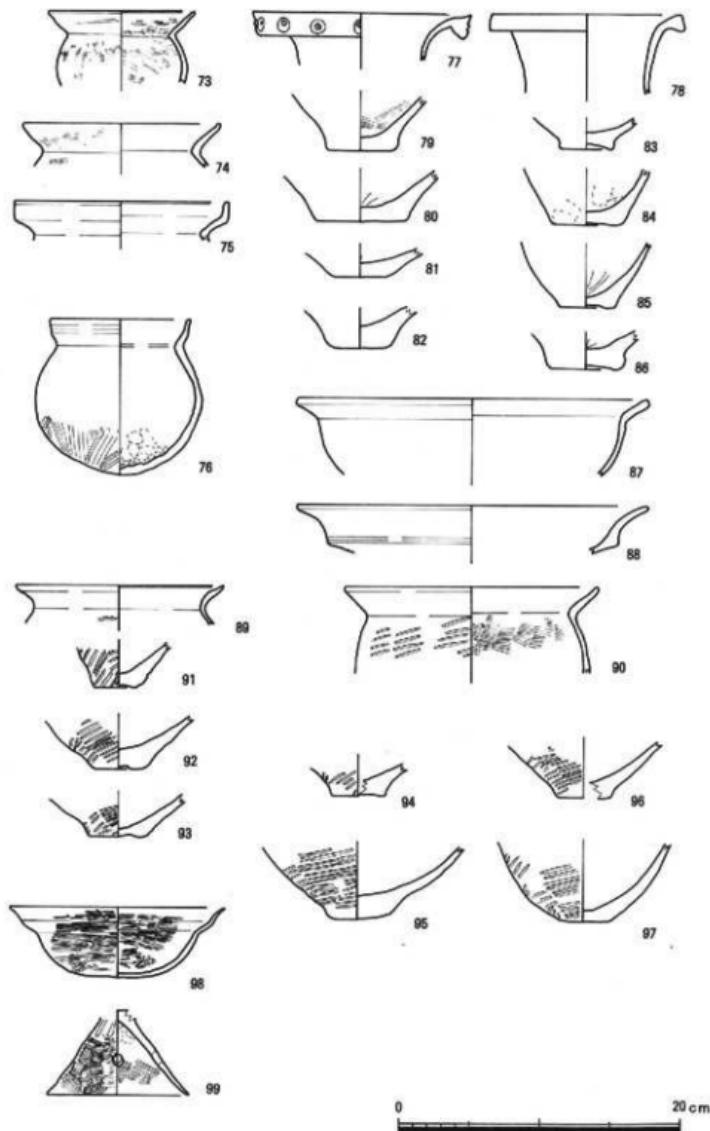
SP-144の北西側で検出した円形の小穴で、径0.5m、深さ0.2mを測る。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP-146

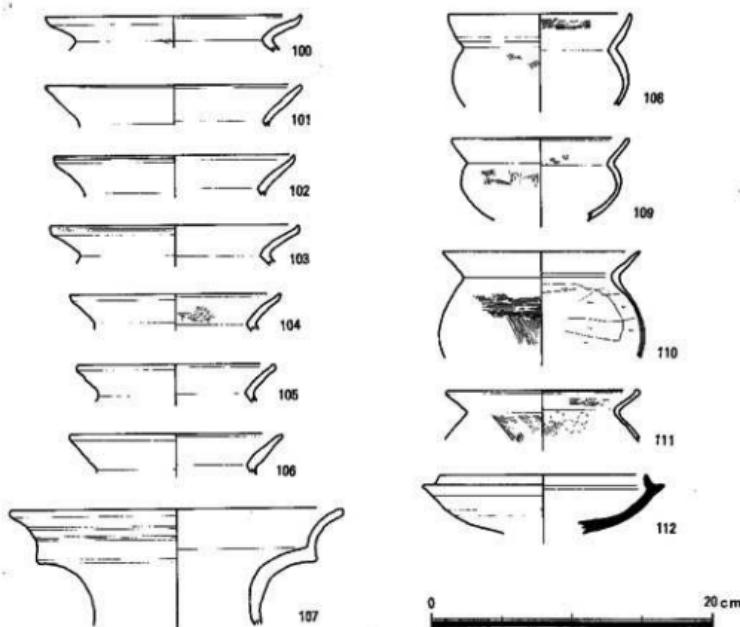
SP-145の北東側で検出した。上面の形状および規模は調査区外へ至るため不明である。内部堆積土は暗茶灰色疊混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

包含層出土遺物

第4調査区では、第4層から弥生時代後期の壺(77~86)・鉢(87)・高杯(88)・甕(89~97)と、古墳時代前期〔庄内式期〕の鉢(98)・器台(99)・甕(100~106)、〔布留式期〕の壺(107~109)、甕(110・111)、古墳時代中期の須恵器杯蓋(112)が出土している。



第17圖 第4調查區SK—102・SP—137・包含層出土遺物實測圖



第18圖 第4調查區包含層出土遺物測量圖

第2節 第3次調査

1. 調査の方法

合同宿舎の建築予定地に合せて3箇所の調査区を設定し、第1調査区、第2調査区、第3調査区と呼称した。調査に際しては、八尾市教育委員会の試掘結果に基づいて、現地表下0.55～0.7mまでの土層を機械により排除し、以下の各層は層理に従って人力掘削を実施して遺構・遺物の検出に努めた。その結果、第1調査区では古墳時代前期と鎌倉時代前期・後期の遺構を検出し、第2調査区では古墳時代前期・後期と鎌倉時代前期と近世の遺構を検出し、第3調査区では、古墳時代前期と鎌倉時代後期の遺構を検出した。

調査地では、調査地の西端に調査用杭〔基1〕を設定した。この杭から、南に15m、北に25m延長させて南北の基準線とした。この基準線の南端を基点とした。東西については、基点から東に190m延長させ、第1～3調査区を覆う東西190m南北40mの範囲を大地図として捉えた。さらにつきこの大地図の中を5m四方の小地区に区画した。各地区を区画する5mごとのラインは、東西は南端を起点としてアルファベット(a～h)で表わし、南北は西端を起点として数字(1～38)で表わした。各地区の表示については、区画の北東隅で交差する2線を用い、1a～38h地区とした。

なお、基1の国土地標は(X-151, 567, 7313)(Y-35, 579, 161)である。

2. 基本層序

調査地内では、第2調査区の中央部で古墳が検出されており、この古墳には盛土がされていた。この古墳以外の地区では比較的良好な形で土層を観察することができ、ここでは普遍的に存在した7層を基本層序とした。

第0層：盛土 層厚0.3～0.6m。調査区の全域でみられる。地表面の標高は7.1～7.14mである。

第1層：淡灰色細砂混粘土 層厚0.1～0.2m。耕土と思われる土層である。

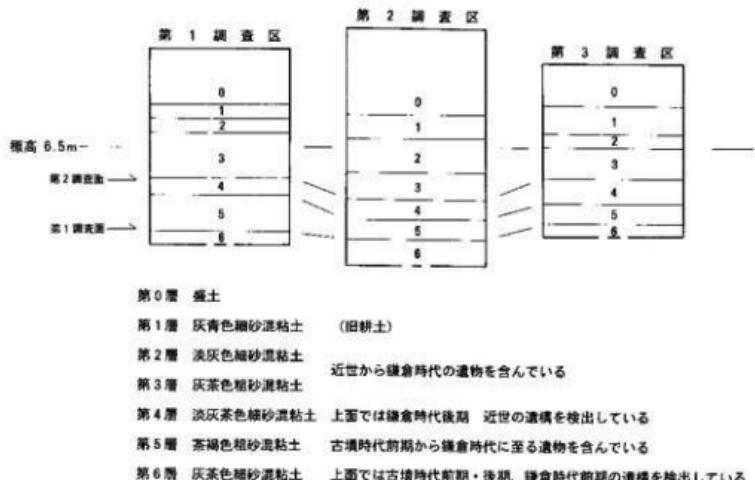
第2層：淡灰色細砂混粘土 層厚0.1～0.24m

第3層：灰茶色粗砂混粘土 層厚0.2～0.32m

第4層：淡灰茶色細砂混粘土 層厚0.12～0.18m。この層の上面は鎌倉時代後期・近世の遺構検出面(第2調査面)である。上面の標高は6.28～6.12mを測る。

第5層：茶褐色粗砂混粘土 層厚0.14～0.36m。弥生時代中期から鎌倉時代に至る遺物を包含している。

第6層：灰茶色細砂混粘土 層厚0.18m以上を測る。上面は古墳時代前期・後期・鎌倉時代前期の遺構検出面(第1調査面)である。上面の標高は5.96～5.84mを測る。



第19図 第3次調査基本層序模式図

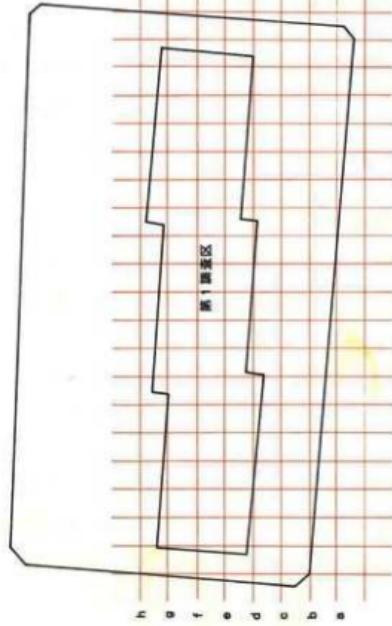
3. 検出遺構と出土遺物

第1調査区では、現地表下0.92m（標高6.28m）に存在する第4層上面で上坑1基・溝39条を検出した。また現地表下1.3m（標高5.9m）に存在する第6層上面で土坑3基・溝7条を検出した。

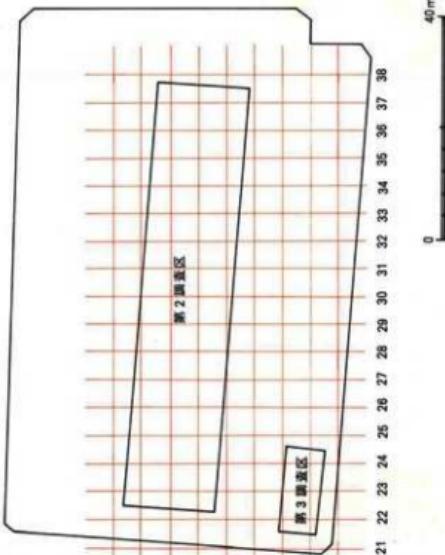
第2調査区では、現地表下1.22m（標高6.23m）に存在する第4層上面で井戸2基・溝2条を検出した。また現地表下1.37m（標高5.94m）に存在する第6層上面で古墳1基・溝3条・自然河道1条を検出した。

第3調査区では、現地表下0.82m（標高6.28m）に存在する第4層上面で小穴3個を検出した。また現地表下1.14m（標高5.96m）に存在する第6層上面で溝1条を検出した。

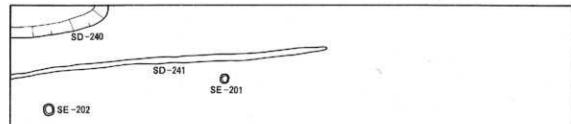
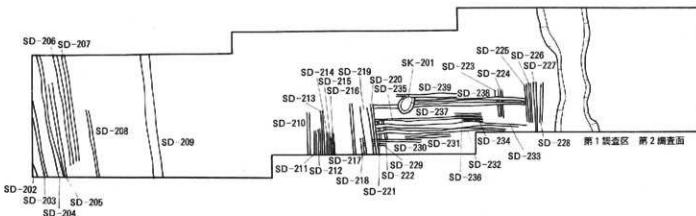
以下、各調査区ごとに検出遺構および出土遺物についての概要を記す。



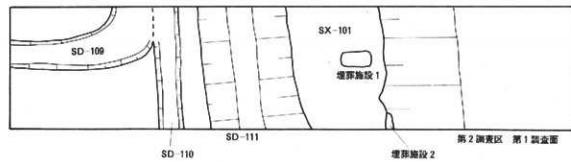
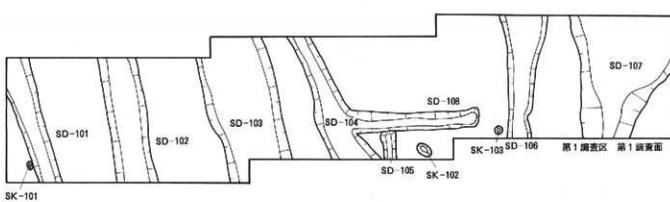
附20图 新3圃地地区剖面图



0 40m



第3調査区 第2調査面
SP-201
SP-203 SP-202



第3調査区 第1調査面
SD-112

第21図 第3次調査追跡平面図

1) 第1調査区

第1調査面

土坑（SK）

SK-101

調査区の西側で検出した土坑で、上面の形状は梢円形を呈する。東西幅0.5m、南北幅0.6m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は茶褐色細砂混粘土である。土坑内からの遺物の出土はなかった。

SK-102

調査区のはば中央で検出した土坑で、上面の形状は梢円形を呈する。東西幅1.0m、南北幅1.9m、深さ0.2mを測る。内部堆積土は茶灰色細砂混粘土である。土坑内からの遺物の出土はなかった。

SK-103

SK-102から東へ約7m地点で検出した土坑で、上面の形状はほぼ円形を呈する。径0.7m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は灰色シルト混粘土である。

溝（SD）

SD-101

調査区の西側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長14m、幅3.5m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は茶褐色シルトである。溝内からは瓦器椀（1）が出上している。

SD-102

SD-101の東側で検出した溝で、検出長14m、幅5m、深さ0.2mを測る。内部堆積土は上から灰色シルト混粘土、淡茶色粗砂、茶褐色細砂である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-103

SD-102の東側で検出した溝で、検出長14m、幅5m、深さ0.3mを測る。内部堆積土は上から茶灰色細砂、灰色シルトである。溝内からは土師器、皿（2）が出上している。なお溝内には、足跡状遺構が多数残っていた。

SD-104

SD-103の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長16m、幅2.0～4.3m、深さ0.15mを測る。この溝はSD-108と合流している。内部堆積土は上から灰茶褐色細砂混粘土、暗茶色粘土である。溝内からは土師器の細片が少量出土している。

SD-105

SD-104の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長4.0m、幅1.0～1.6m、深さ0.2mを測る。溝の北側はSD-108に切られている。内部堆積土は上から暗灰色シルト混

粘土、茶灰色細砂である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-106

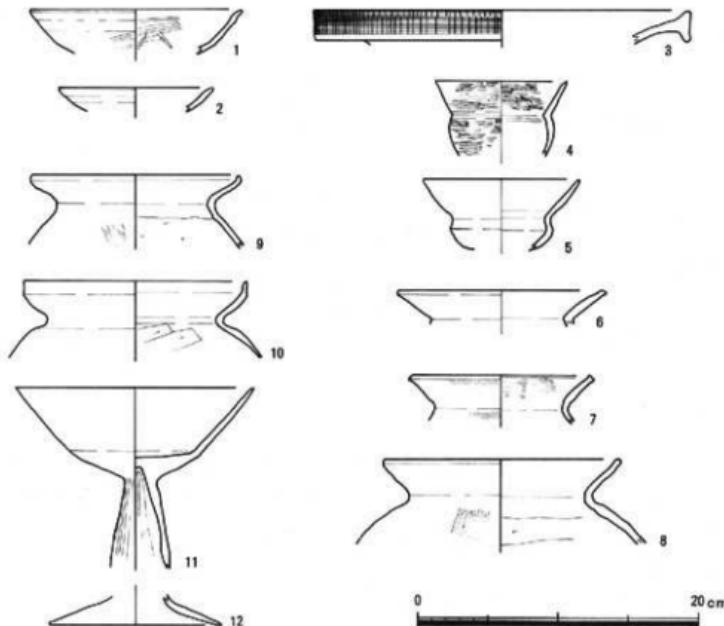
SD-105の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長14m、幅1.7~5.0m、深さ0.15mを測る。内部堆積土は上から灰茶色シルト混粘土、茶灰色細砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-107

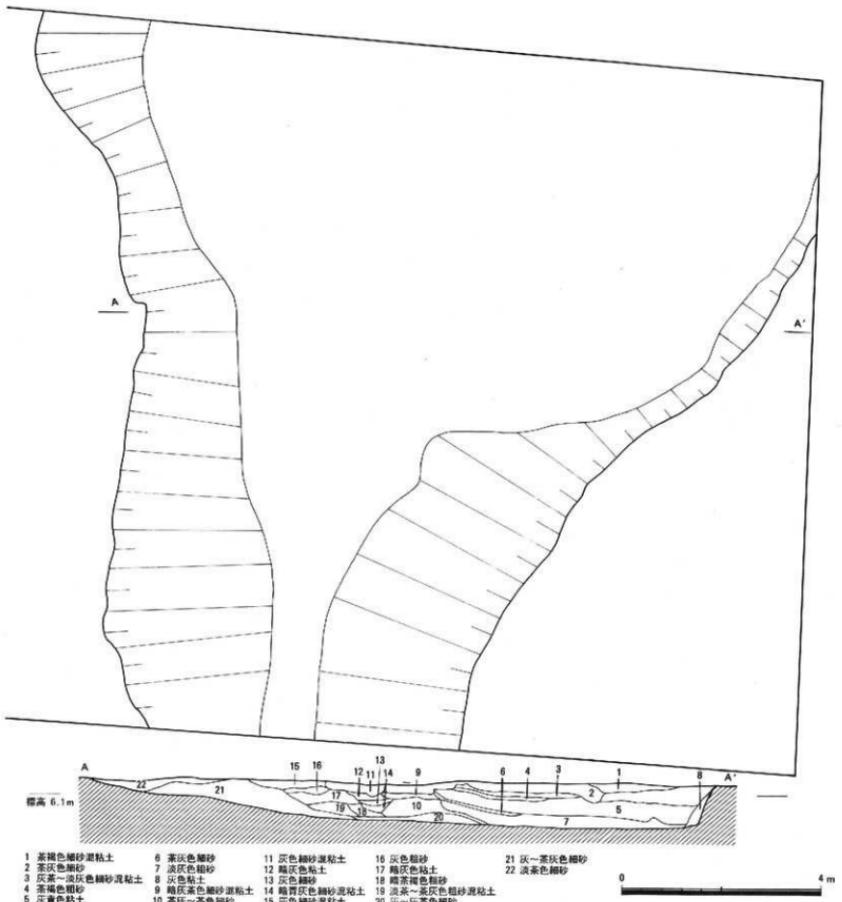
SD-106の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長13.3m、幅6.3~16.1m、深さ0.85mを測る。内部堆積土は粘砂・細砂・シルトを主体とする上層が複雑に堆積しており、比較的水流の激しい河道であった可能性が推察できる。溝内からは弥生時代中期の壺(3)、古墳時代前期〔布留式期〕小形壺(4・5)、壺(6~10)、高杯(11・12)の他、須恵器、土師器、瓦器の細片が少量出土している。

SD-108

SD-104東側で検出した。東西方向に伸びる溝で、検出長16.5m、幅3.0m、深さ0.13mを測る。内部堆積土は茶褐色細砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。



第22図 第1調査区 SD-101, SD-103, SD-107出土遺物実測図



第23图 第1试验区SD—107剖面图

第2調査面

土坑（SK）

SK-201

調査区のはば中央で検出した土坑で、土坑の北部はSD-239で切られている。上面の形状は楕円形を呈する。東西幅1.9m、深さ0.15mを測る。内部堆積土は上から茶灰色細砂混粘土、茶灰色シルト混粘土である。土坑内からの遺物の出土はなかった。

溝（SD）

SD-201

調査区の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長14m、幅3.5m、深さ0.15mを測る。内部堆積土は上層から茶灰色細砂混粘土、灰青色シルト混粘土、淡茶色シルト混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-202

調査区の西側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長2.5m、東肩のみの検出で幅、深さは不明である。内部堆積土は茶灰色細砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-203

SD-202の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長11m、幅0.4m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は上層から茶灰色細砂混粘土、灰褐色シルト混粘土である。溝内からは瓦器、土師器の細片が少量出土している。

SD-204

SD-203の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長14m、幅0.34m、深さ0.06mを測る。内部堆積土は茶灰色細砂混粘土である。溝内からは瓦器、土師器の細片が少量出土している。

SD-205

SD-204の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長14m、幅0.29m、深さ0.07mを測る。内部堆積土は上層から茶灰色細砂混粘土、灰茶色シルトである。溝の茶灰色細砂混粘土内から、瓦器・土師器の細片が少量出土している。

SD-206

SD-205の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長11.5m、幅0.35m、深さ0.03mを測る。内部堆積土は茶灰色細砂混粘土である。溝内からは、瓦器・土師器の細片が少量出土している。

SD-207

SD-206の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長13.5m、幅0.48m、深さ0.06

mを測る。内部堆積土は上層から茶灰色細砂混粘土、茶褐色細砂である。溝内からは、瓦器・土師器の細片が少量出土している。

SD-208

SD-207の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長13.5m、幅0.48m、深さ0.06mを測る。内部堆積土は上層から茶灰色細砂混粘土、茶褐色細砂である。溝内からは、瓦器・土師器の細片が少量出土している。

SD-209

SD-208の東側で検出した。南北に伸びる溝で、検出長14m、幅1.54m、深さ0.22mを測る。内部堆積土は上層から茶灰色細砂混粘土、茶褐色シルト混粘土、茶灰色シルト混粘土、茶灰色細砂である。溝内からは、土師器の小皿（13・14）が出土している。

SD-210

SD-209の東側で検出した溝で、検出長5.6m、幅0.27m、深さ0.09mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-211

SD-210の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長3.0m、幅0.25m、深さ0.06mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-212

SD-211の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長4.0m、幅0.2m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-213

SD-212の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長5.25m、幅0.15m、深さ0.04mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-214

SD-213の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長2.25m、幅0.26m、深さ0.07mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-215

SD-214の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長2m、幅0.17m、深さ0.04mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-216

SD-215の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長2.5m、幅0.3m、深さ0.07mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-217

SD-216の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長6.5m、幅0.22m、幅さ0.05mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-218

SD-217の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、SD-229と合流している。検出長22.5m、幅0.28m、深さ0.04mを測る。内部堆積土は灰茶色細砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-219

SD-218の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、SD-229・SD-230と合流している。検出長6.25m、幅0.6m、深さ0.06mを測る。内部堆積土は灰茶色細砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-220

SD-219の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、SD-229・SD-230・SD-232・SD-233・SD-235・SD-237と合流している。検出長6.0m、幅0.3m、深さ0.04mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-221

SD-220の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、SD-230・SD-232・SD-233・SD-235と合流している。検出長2.5m、幅0.2m、深さ0.03mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-222

SD-221の東側で検出した。東西方向に伸びる溝で、SD-230・SD-232・SD-233・SD-235と合流している。検出長3.5m、幅0.25m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からは、瓦器の椀(15)が出土している。

SD-223

SD-222の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、SD-237・SD-238と合流している。検出長4.0m、幅0.25m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-224

SD-223の東側で検出した。南北方向

に伸びる溝で、SD-237・SD-238と 第24図 第1調査区 SD-209・SD-222出土物実測図

13

14



合流している。検出長4.0m、幅0.25m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-225

SD-224の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、SD-237・SD-238と合流している。検出長5.3m、幅0.25m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-226

SD-225の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長4.3m、幅0.2m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-227

SD-226の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、SD-233と合流する。検出長5.8m、幅0.15m、深さ0.06mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-228

SD-227の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長4.0m、幅0.25m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-229

調査区の南部で検出した。東西方向に伸びる溝で、SD-218・SD-219・SD-220と合流している。検出長2.3m、幅0.2m、深さ0.04mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-230

SD-229の北側で検出した。東西方向に伸びる溝で、SD-219・SD-220・SD-221・SD-222と合流している。検出長7.7m、幅0.3m、深さ0.06mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-231

SD-230の北側で検出した。東西方向に伸びる溝で、SD-232と合流している。検出長8.3m、幅0.27m、深さ0.6mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-232

SD-231の北側で検出した。東西方向に伸びる溝で、SD-219・SD-220・SD-221と合流している。検出長17.7m、幅0.26m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-233

SD-232の北側で検出した。東西方向に伸びる溝で、SD-219・SD-220・SD-221・SD-227と合流している。検出長20.6m、幅0.3~0.6m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-234

SD-233の北側で検出した。東西方向に伸びる溝で、検出長4.3m、幅0.3m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-235

SD-234の北側で検出した。東西方向に伸びる溝で、検出長12.5m、幅0.25m、深さ0.04mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-236

SD-235の北側で検出した。東西方向に伸びる溝で、検出長2.8m、幅0.3m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-237

SD-236の北側で検出した。東西方向に伸びる溝で、SD-220・SD-223・SD-224・SD-225と合流し、SK-201を切っている。検出長19.5m、幅0.3m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-238

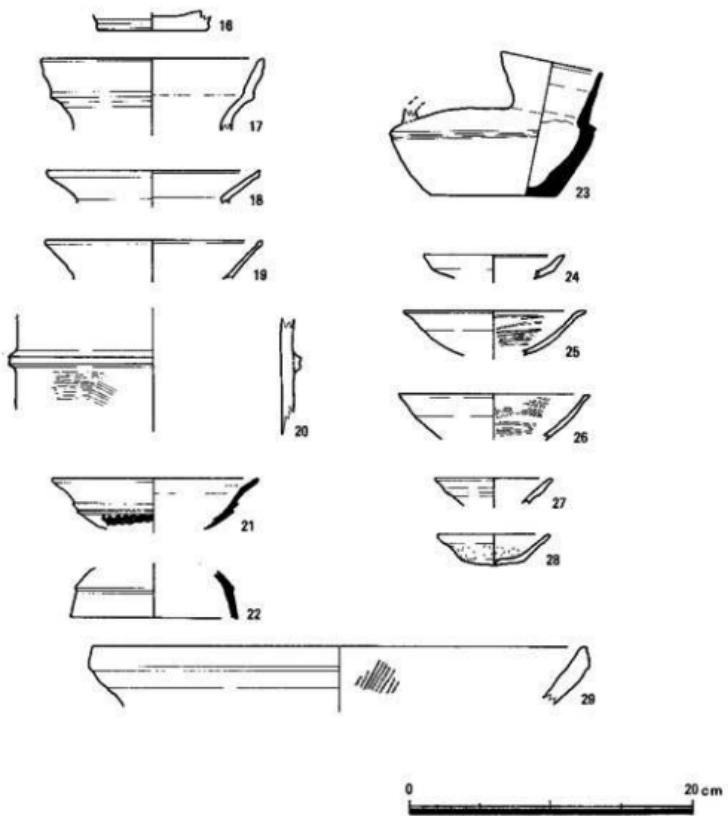
SD-237の北側で検出した。東西方向に伸びる溝で、SD-223・SD-224・SD-225と合流し、SK-201を切っている。検出長12.2m、幅0.28m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-239

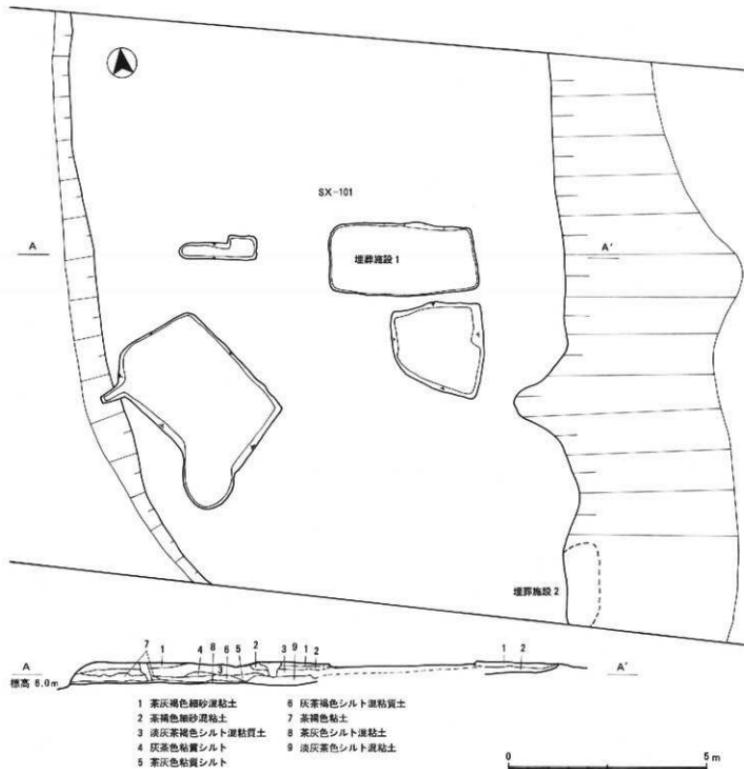
SD-238の北側で検出した。東西方向に伸びる溝で、SK-201を切っている。検出長7.8m、幅1.0m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

包含層出土遺物

第1調査区では第6層から弥生時代中期の壺(16)が、第5層から古墳時代前期〔庄内式期の壺(17)・甕(18・19)、円筒埴輪の破片(20)、須恵器の高杯(21)、杯蓋(22)、平瓶(23)、瓦器の小皿(24)、碗(25・26)、土師器の小皿(27・28)が、第4層から瓦質の擂鉢(29)が出上している。



第25图 第1调查区包含带出土遗物实测图



第28図 第2調査区SX-101断面図

2) 第2調査区

第1調査面

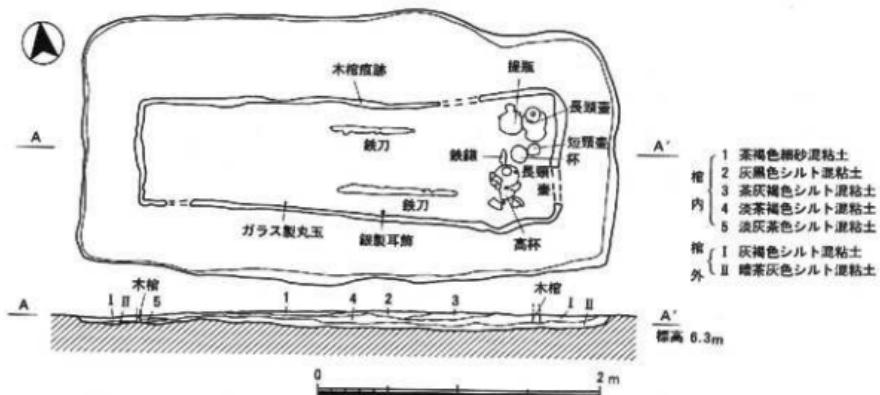
古墳 (SX)

SX-101

第2調査区のほぼ中央で検出した。検出した規模は東西12m・南北13mを測る。墳丘の東側は自然河道（NR-101）、西側は溝（SD-111）によって削られているため本来の形は明確にできなかったが、検出した平面形状から墳丘は方形を呈すると思われる。また、墳丘は上部が中世以降に削り取られているため、高さは不明である。現状での高さは0.5mを測る。墳丘は下から淡灰茶色シルト混粘土、茶灰色シルト混粘土、茶褐色粘土、灰茶褐色シルト混粘質土、茶灰色粘質シルト、灰茶色粘質シルト、淡灰茶褐色シルト混粘質土、茶褐色細砂混粘土、茶灰褐色細砂混粘土が盛り上げられていた。

埋葬施設は、墳頂部のやや東寄りに1基（埋葬施設1）と南寄りに1基（埋葬施設2）の2基を検出した。埋葬施設1は木棺直葬、埋葬施設2は直葬である。

埋葬施設1は、主軸をほぼ東西に向いている。墓壙は、隅丸長方形であり、茶灰褐色細砂混粘土を凹字状に掘り込んでいる。墓壙の底はほぼ平坦である。墓壙の規模は東西幅3.8m、南北幅1.9m、深さ0.1mを測る。木棺は墓壙のほぼ中央に位置している。木棺の規模は内寸で長さ2.78m、東小口幅0.8m、西小口幅0.65mを測る。本来の高さは不明で、現状では底から0.06m程度残存しているのみであった。木棺内の東側からは、須恵器の蓋（30）、台付長頸壺（31・32）、短頸壺（33）、高杯（34）、提瓶（35）、土師器の杯（36）、鉄鎌（39・40）が出土



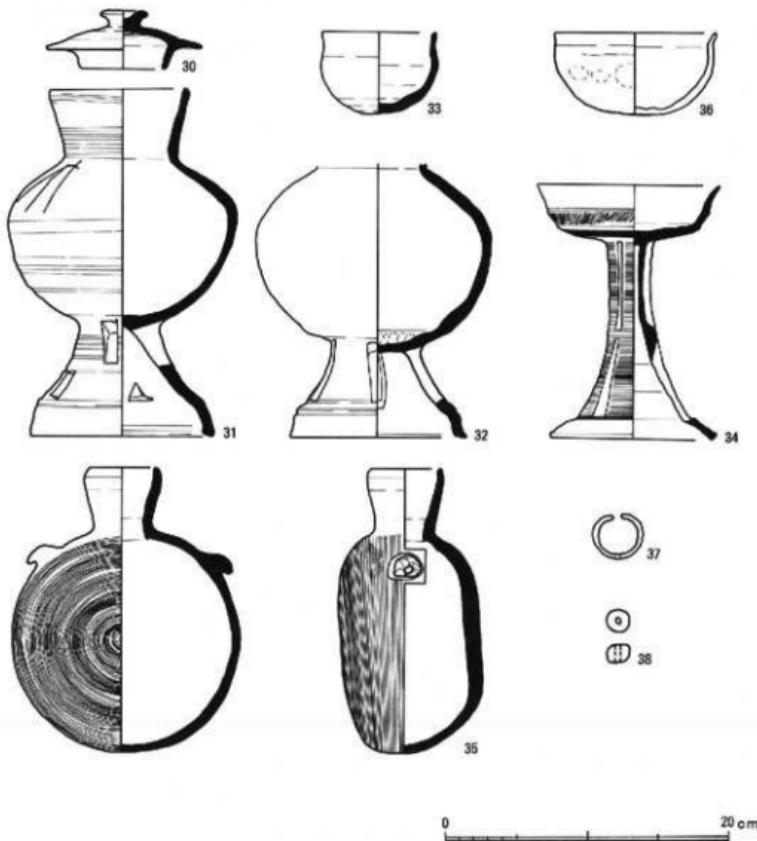
第27図 第2調査区 SX-101埋葬施設1平面断面図

出土している。また、中央の北側と南側からは鉄刀（41・42）が出土している。南側からは耳飾（37）、玉類〔丸玉〕（38）が出土している。人骨の検出はなかった。

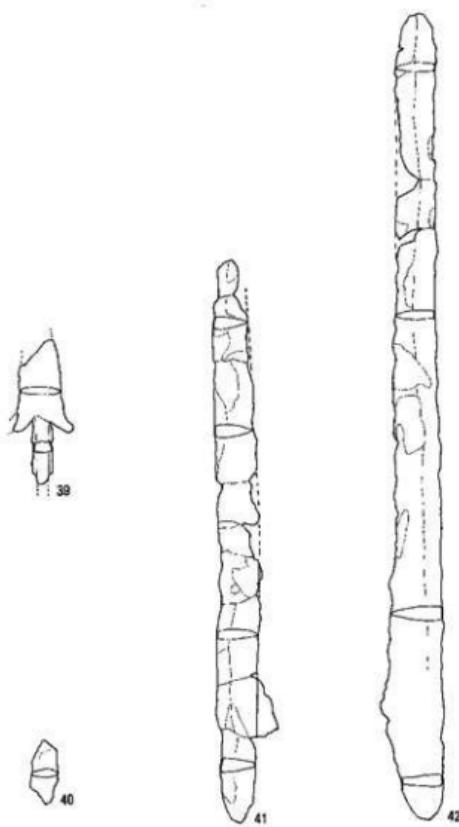
埋葬施設2は、主軸をほぼ南北に向けている。墓壇は現状で、東西幅0.65m、南北幅1.7m、深さ0.1mを測る。この埋葬施設は直葬で、人骨を検出した。人骨は腐蝕が激しく、かろうじて頭蓋骨等がわかる程度のものであった。この埋葬施設内からの遺物の出土はなかった。

この古墳の時期は、埋葬施設1から出土した須恵器の形式から六世紀末のものと思われる。

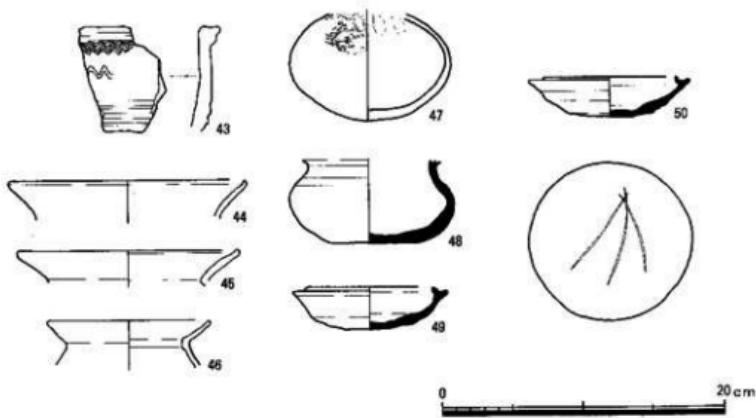
また、墳丘内の茶褐色細砂混粘土からは弥生時代中期の鉢（43）・古墳時代前期〔庄内式期〕の壺（44～46）、茶灰褐色細砂混粘土からは土師器の壺（47）、須恵器の杯（48～50）が出土した。



第28図 第2調査区SX-101出土遺物実測図1



第29圖 第2調查區S-X-101出土遺物實測圖2 (1/3)



第30図 第2調査区 SX-101墳丘内出土遺物実測図

溝 (SD)

SD-109

調査区の西側で検出した。東西方向に伸び、東側でSD-110と合流している。検出長18m・幅3.0m・深さ0.25mを測る。内部堆積土は上層から茶灰色シルト混粘土・暗茶灰色細砂混粘土・暗灰色細砂・暗灰茶色細砂である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-110

SD-109の東側で検出した。南北方向に伸び、北側でSD-109と合流している。検出長13m・幅3.0m、深さ0.2mを測る。内部堆積土は上層から暗灰茶色細砂である。溝内からは遺物の出土はなかった。

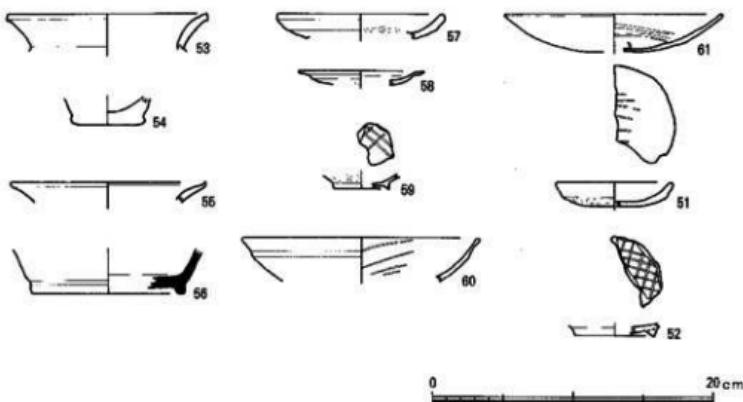
SD-111

SD-110の東側で検出した。検出長13m・幅13m・深さ0.3mを測る。内部堆積土は暗灰茶色細砂である。溝内からは、瓦器皿(51)・椀(52)が出土している。

自然河道 (NR)

NR-101

SX-101の東側で検出した自然河道である。検出長は13mである。幅は河道の東端が調査区外にあるため不明である。深さは1.1m以上である。内部堆積土は粗砂、細砂を主体とした土層が複雑に堆積している。河道内からは弥生時代後期の甕(53・54)・古墳時代前期〔庄内式期〕の甕(55)・須恵器の杯身(56)・瓦器の椀(59~61)・土師器の皿(57・58)が出土している。



第31図 第2調査区SD-111・NR-101出土遺物実測図

第2調査面

井戸 (SE)

SE-201

SD-241の南側で検出した素掘りの井戸で、上面の形状は円形を呈する。径1.35m・深さ0.55mを測る。断面の形状は逆台形を呈しており、内部堆積土は上から、淡灰茶色細砂混粘土・灰色粗砂混粘土である。井戸内からは、上師器の皿(62)・瓦器の椀(63)が出土している。

SE-202

調査区の南西部で検出した木枠井戸で、上面の形状は円形を呈し、径1.6mを測る。井戸の深さは、井戸の下部が粗砂で、しかも溝水が激しいため、不明である。掘形の中央部に桶を3段重ねていた。桶は径0.7m・高さ1.0mを測る。井戸側と掘形の間の堆積土は上から、灰色粘土・茶褐色細砂混粘土上で、井戸側内の堆積土は、灰茶色細砂混粘土である。井戸内からは近世の遺物が少量出土している。

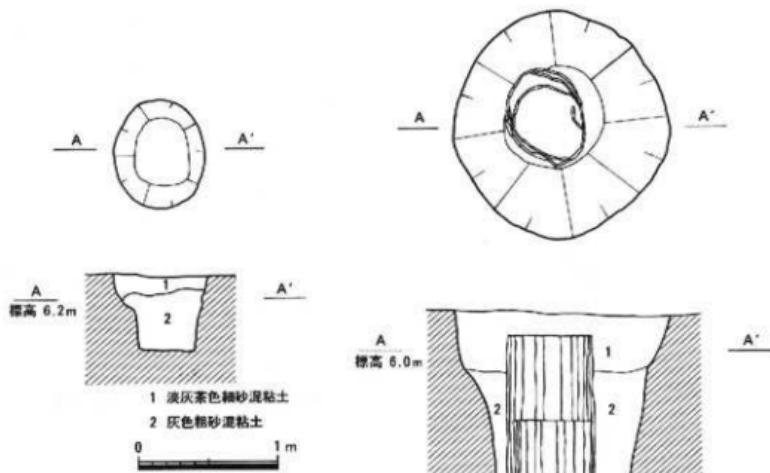
溝 (SD)

SD-240

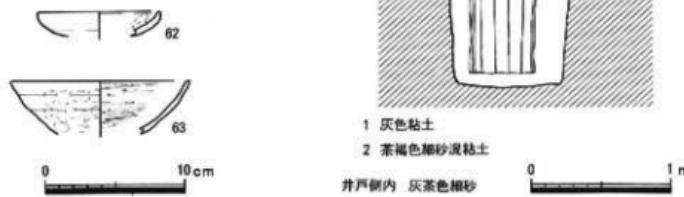
調査区の北西側で検出した。幅は溝の北肩が調査区外にあたるため不明である。検出長12m・深さ0.2mを測る。内部堆積土は上から茶灰色細砂混粘土・灰茶色シルト混粘土である。溝内からの出土遺物はなかった。

SD-241

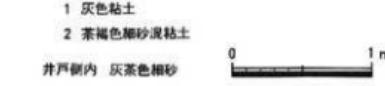
SD-240の南で検出した溝で東西方向に伸びる。検出長42m、幅0.5~0.9m、深さ0.1



第32図 第2調査区SE-201平面図



第33図 第2調査区SE-201出土
遺物実測図



第34図 第2調査区SE-202平面図

mを測る。内部堆積土は灰茶色粘土である。溝内からの出土遺物はなかった。

包含層出土遺物

第2調査区では第5層から弥生時代中期の壺(64)・高杯(65)、後期の壺(66)・甌と思われる底部(67~69)、古墳時代前期の鉢(70・71)、壺(72・73)、須恵器杯身(74~77)・器台(78)、土師器の小皿(79)、中皿(80)、瓦器の小皿(81)・甌(82)白磁の椀(83)が出土している。

3) 第3調査区

第1調査面

溝（SD）

SD-112

調査区の南側で検出した。検出長13.5m、幅は溝の南肩が調査区外に広がっているため不明である。深さは0.3mを測る。内部堆積土は上肩から灰茶色シルト混粘土、暗灰色細砂混粘土で溝内からは古墳時代前期〔布留式期〕の甕（84・85）が出上している。

第2調査面

小穴（SP）

SP-201

調査区のほぼ中央で検出した。上面の形状は円形を呈する。径0.28m、深さ0.2mを測る。内部堆積土は灰色粘土で、小穴内からの遺物の出土はなかった。

SP-202

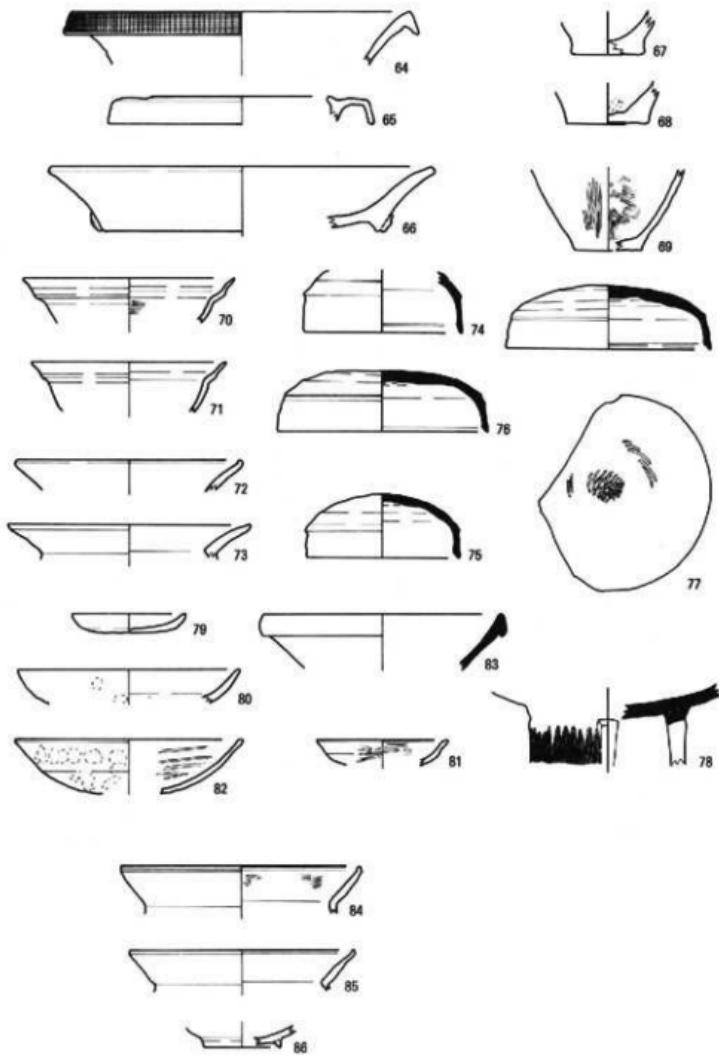
SP-201の西側で検出した。上面の形状は円形を呈する。径0.2m、深さ0.2mを測る。内部堆積土は灰色粘土で、小穴内からの遺物の出土はなかった。

SP-203

SP-202の西側で検出した。上面の形状は円形を呈する。径0.26m、深さ0.2mを測る。内部堆積土は灰色粘土で、小穴内からの遺物の出土はなかった。

包含層出土遺物

第3調査区では第5層から瓦器の椀（86）のほか、土師器の細片が少量出土している。



0 1 20 cm

第35图 第2调查区包含层·第3调查区 S D—112、包含层出土遗物实测图

第4章 出土遺物觀察表

第2次調査
SD-101

道具番号 回収番号	器種	法規 口径 高さ	形態・調整等の特徴	色調	胎上	焼成	備考
1 六	土 諸 器 器	口 径 9.7 高 8.8	「く」の字状の後をもち幅く外反し、端部を丸くおさめる口縁部。体部は球形で、脚部の最大径が口径を上まわる。口縁部内側底方向、外側底方向のハケ目を施す。体部外表面は底部に横方向のハケ目をつけ、その下から底部まで丸方向のハケ目を施し、内面はハケ日の上をナゲている。	淡金色	密	良好	
2	土 諸 器 器	—	口縁外折、体部は球形、体部外表面は肩部に横方向のハケ目をつけ、その下から底部まで丸方向のハケ目を施す。内面はナゲ。	淡黒褐色	密	良好	
3 六	土 諸 器 器	口 径 7.8	幅く外反し、端部は丸くおさめる口縁部。体部はやや尖った球形。脚部の最大径が口径を上まわる。体部外表面ナゲ、口縁部内外面ヨコナゲ。	茶褐色	粗 1 mm程度の 石英を多く 含む	良好	
4 六	土 諸 器 小型器	—	口縁部有欠損。球形の体部。体部、口縁部内外面ナゲ。	淡灰褐色	密	良好	
5 六	土 諸 器 高杯	口 径 18.7 器 高 12.6 高 10.5	水平に伸びる底部から角度をかえて、やや内寄しながらひらき。端部は常に外方にひらく。脚部は丸くおわる杯部。柱状部からなめらかに脚部がひらく。底部は丸く終わる脚部。柱状部に3孔を穿つ。杯部内面ナゲ、外面ハケ目後ナゲ。脚部内面ハケ目、外面ナゲ。	淡褐色	密	良好	
6 六	土 諸 器 高杯	口 径 17.5 器 高 12.3 高 11.2	形態、調整とともに6に似る。	淡灰褐色	密	良好	
7 六	土 諸 器 高杯	口 径 18.5 器 高 13.0 高 11.2	形態、調整とともに6に似る。	淡褐色	密	良好	
8	土 諸 器 高杯	口 径 17.6	水平に伸びる底部から角度をかえて、やや内寄しながらひらく口縁部。端部は丸く終わる。内面ナゲ、外面ハケ目。	茶褐色	密	良好	

品目番号	器種	口径	形態・調整等の特徴	色調	胎上	焼成	備考
9 六	土器 高杯	口径 17.4	水平に伸びる底部から角度をかえて、やや内側しながらひらく。端部は尖り気味に丸く終わる。内面ナデ、外面ハケ日。	灰褐色	密	良好	
10	土器 高杯	口径 18.8	なめらかに外反しながら開く口縁部。端部は丸く終わる。内外面ともヨコナデ。	淡灰褐色	密	良好	
11 六	土器 高杯	口径 23.0 高さ 13.0 底径 15.2	水平に大きく開く底部から棱を残し、外反する口縁部。端部は面をもつ。柱状部からなめらかに施部がひらく脚部。柱状部に3孔を穿つ。杯部内面横方向のハッパ目或方刺状のヘラミガキ。外側口縁部ヘラミガキ。口縁部ヨコナデ。底面ハケ日後ハミガキ。脚部内面しづり日。窓面横方向のハケ日。	乳灰褐色	密	良好	
12	土器 高杯	口径 30.2	水平に大きく開く底部から棱を残し、外反する口縁部。端部は更に外方に向く。端部は丸く終わる。内外面とも横ナデ。	淡灰褐色	密	良好	
13 七	土器 高杯	口径 19.6	水平にひろがる底部から、段をつくり外側しながら開く口縁部。内外面ヨコナデ。	淡灰褐色	密	良好	
14	土器 高杯	口径 12.0	柱状部からなめらかに施部がひらく。端部は面をもつ。内面しづり日。横方向のハケ日。外面ナデ。	灰茶褐色	密	良好	
15 七	土器 高杯	口径 15.8	口縁部は内面に棱をもちそのまま外反する。端部は内方に肥厚し、内縮する。体部は長筒形である。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面下位指印压成形、中位ヘラケズリ、外面ハケ日。体部上位に舟底文。	淡灰褐色	密	良好	
16 七	土器 高杯	口径 15.0 高さ 25.0	口縁部は内側しながら開く。端部は内方に肥厚し、内縮する。体部は球形である。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面下位指印压成形、中位ヘラケズリ、上位指印ナデ、外面ハケ日。	淡灰褐色	密	良好	
17 七	土器 高杯	口径 12.1	口縁部は内側しながら開く。端部は内方に肥厚し、内縮する。体部は球形である。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面下位指印压成形、中位ヘラケズリ、上位指印ナデ、外面ハケ日。	淡灰褐色	密	良好	

植物番号 回収番号	容 横	口 径	形態・調整等の特徴	色 調	粒 土	燒 成	備 考
	法量 法量 標準	法量 標準					
18 上 鋸 器 七	口 径 13.2		口縁部は内側しながら開く。端部は内方に肥厚し、内側する。体部は球形である。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面中位ヘラケズリ。上位指頭ナダ。外面ナダ。	淡灰褐色	密	良好	
19 土 筛 器 裏	口 径 13.3		口縁部は内側しながら開く。端部は内方に肥厚し、内側する。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ。外面ハケ日。体部内面に圧痕文。	淡灰褐色	密	良好	
20 上 鋸 器 七	口 径 13.1		口縁部は外反する。端部は丸く終わる。体部は球形。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面下位指頭托盤あり。中位ヘラケズリ。上位指頭ナダ。	淡灰褐色	密	良好	
21 下 鋸 器 七	口 径 12.7		口縁部はそのまま外反する。端部は内方へつまみ上げ氣味に丸く終わる。体部は球形。口縁部内面横四方のハケ日。外曲線方向のハケ日。体部内面下位ナダ。中位から上位にかけてヘラケズリ。外曲ハケ日。	淡灰褐色	密	良好	

SD-201

植物番号 回収番号	容 横	口 径	形態・調整等の特徴	色 調	粒 土	燒 成	備 考
	法量 法量 標準	法量 標準					
22 丘 瓢 器 七	口 径 17.6		斜上方に内側して伸びる体部からわざかに外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸く終わる。折おきえ後体部ナダ。口縁部ヨコナデ。ヘラミガキは内面粗い横方向。見込み平行線状のヘラミガキ。	黒灰色	やや粗	良好	

第2調査区 包含層

植物番号 回収番号	容 横	口 径	形態・調整等の特徴	色 調	粒 土	燒 成	備 考
	法量 法量 標準	法量 標準					
23 介生式上部 瓶 直 径 3.3			突出する平底。体部外側タキ日。内面ヘラによる圧痕あり。底部外面指頭ナダ。	淡茶褐色	密	良好	
24 介生式下部 瓶 直 径 4.0			丸味のある体部。突出する平底。体部内外面ナダ。底部外面指頭ナダ	淡灰褐色	密	良好	
25 下 鋸 器 八	口 径 16.6		丸味のある体部から細部でくの字に曲がり。外反する口縁部に至る。口縁部は上方へつまみ上げ尖り氣味に終わる。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ。外側タキ日。ヨコナデ。	淡灰褐色	粗 1mm程度の 石英、雲母 含む	良好	

遺物番号 四版番号	器種	口径 法量 高さ	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
26 八	土師器	口径 10.0	体部は扁球形。くの字状に外反し端部は丸く終わる。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。外面ハケ目。	淡灰褐色	粗 1mm程度の 石英含む	良好	
27	土師器 小盤	口径 9.2	球形の体部から外反する口縁部に至る。口縁端部はやつまみ上げ氣味に丸く終わる。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデによるナデ。外面ナデ。	淡黒褐色	密	良好	
28 八	土師器 高杯	口径 17.3	丸柱のある底部からゆるやかに外反しながらひらき、腹部は尖って終わる。口縁部内外面ヨコナデ。外面ハケ目の後指頭ナデ。底部内面ヘラナデ。外面ハケ目。	茶褐色	密	良好	
29 八	土師器 高杯	口径 10.4	斜めに拡がる柱状部から外側にひらく腹部で端部は両をもつ。柱状部外面ハラケゼリ。内面しづり目。底部内面布口压痕。外面ナデ。ハケ目。	淡灰褐色	密	良好	
30	土師器 甕	口径 15.4	内壁氣味に上方にのびる端部は内側に肥厚する。内外面ともヨコナデ。	淡棕色	密	良好	
31	土師器 甕	口径 13.2	体部からくの字に曲がり、外反して伸びる口縁部。口縁部内面横方向のハケ目。外面横方向のハケ目。体部内面指頭ナデ。外面ハケ目。	淡灰褐色	粗 石英含む (1mm~3 mm程度)	良好	
32	瓦器 碗	口径 14.0	外反し丸く終わる口縁部。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面横方向のハラミガキ。外面指頭圧残存。	黑灰色	密	良好	

SK-101

遺物番号 四版番号	器種	口径 法量 高さ	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
33 八	土師器 高杯	口径 13.2 器高 10.9 高 9.8	浅い半球形の杯部。口縁部は直立し、端部は丸く終わる。脚部は柱状部から丸く開曲し、斜向外方に開く。端部は両をもつ。口縁部・杯底部内外面ナデ。底部内面柱状部にしづり目が残る。底部内面指頭ナデ。	茶褐色	粗	良好	

S D-102

造物番号 部品番号	器種	寸法 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
34	土 蒸器 小型皿	口 径 10.6	内壁気味に伸びる口縁部。端部は内方つまんで丸く終わる。内外面ともヨコナダ。	乳茶色	やや粗	良好	
35	上 蒸器 高杯	口 径 10.2	柱状部からゆるやかにひろく底部。柱状部内面しづり目が残る。底部内面ハケ目。	淡茶色	やや粗	良好	

S K-201

造物番号 部品番号	器種	寸法 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
36	土 蒸器 小皿	口 径 8.2	丸く立ち上がり、斜上方へ内壁気味に伸びる口縁部に至る。端部は尖る。外面底部ナデ、口縁部ヨコナダ、体部内面ナデ。	乳茶色	密	良好	

S K-202

造物番号 部品番号	器種	寸法 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
37	土 蒸器 小皿	口 径 8.0	丸く立ち上がり、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は尖る。口縁部内面ヨコナダ、体部内面ナデ。	淡茶灰色	密	良好	
38	土 蒸器 小皿	口 径 9.2	やや丸味をもった体部から、丸く立ち上がり斜上方へやや内窪しながら伸び口縁部に至る。端部は尖る。口縁部内面ヨコナダ、体部内面ナデ。	淡黒灰	密	良好	

S K-203

造物番号 部品番号	器種	寸法 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
39 八	瓦 器 構	口 径 13.8	外上方へ直線的に伸びる体部から角度を変えて上外方へ直線的に伸びる口縁部に至る。体部内面ヘラミガキ、外側ナデ、口縁部内面ナデ。	灰黑色	密	良好	青磁編印 三-3 口径、器高 調整から見て

SK-204

遺物番号 同種番号	器種	口径 法量 高さ	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
40	土器 中皿	口径 13.2	底部から丸く立ち上がり、斜上方へやや内傾しながら伸びる口縁部に至る。端部は尖り気味に終わる。体部内外面ナデ、口縁部内外面ヨコナダ。	淡茶灰色	密	良好	
41	瓦器 小皿	口径 11.2	外反気味に伸び、端部は尖り気味に終わる。体部内外面ともヘラミガキ。口縁部内外面ヨコナダ。	灰褐色	密	良好	

SD-202

遺物番号 同種番号	器種	口径 法量 高さ	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
42	瓦器 八	口径	斜上方へ内傾して伸びる体部から口縁部へ至る。端部は丸く終わる。体部内面粗い横方向のヘラミガキ。外面部おさえ後ナダ。口縁部内外面ヨコナダ。	淡灰褐色	密	良好	
43	瓦器	高台径 5.8	底部中央が少しあり上がった後徐々に内傾して立ち上がる。高台は断面逆三角形で「ハ」の字形に付く。高台周囲ヨコナダ、内面平行線状ヘラミガキ。	焦褐色	密	良好	
44	瓦器	高台径 5.0	水平な底盤から徐々に内傾して立ち上がる。高台は断面逆三角形で「ハ」の字形に付く。高台周囲ヨコナダ、内面ナダ。	淡灰黒色	密	良好	

第3調査区 包含層

遺物番号 同種番号	器種	口径 法量 高さ	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
45	弥生式上器 壺	口径 16.2	外反する口縁部。端部は下方につまみ、面をもつ。内面ヨコナダ、外面部ヘラミガキ。	乳茶色	粗	良好	
46	弥生式土器 脚付鉢	口径 14.0 器高 8.45	半円形の体部、口縁部は丸く終わる。端部はゆるやかにひらく。内外面ともナダ。	淡茶褐色	やや粗	良好	
47	弥生式土器 高杯	—	平らな底からゆるやかにひらく杯部。柱状部からなめらかに瓶部がひらく。瓶部内面ナダ、外面部ヘラミガキ。柱状部内面しづり口が残る外面部ヘラミガキ。	茶褐色	密	良好	

遺物番号 回転番号	器種 法規 高さ	口径 法規 高さ	形態・調整等の特徴	色調	釉上	焼成備考
48	弥生式土器 甕	口 径 16.0 底 票	外上方へひらく口縁部。端部は面をもつ。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ナデ。外面タタキ目。	淡乳灰色	密	良好
49	弥生式土器 甕	口 径 16.0	外反した後、屈曲して再び外反する受口状の口縁部。内外面ともヨコナデ。	淡茶褐色	粗	良好
50	弥生式土器 台付甕	底 票 9.4	下外方に伸びる。端部は丸く終わる。内面板状工具によるナデ、外面ナデ。接合部が残る。	赤褐色	やや粗	良好
51	弥生式土器 甕	底 票 4.8	底面は少しきずむ。突出する平底。内面板状工具によるナデ、外面ナデ。	淡茶褐色	やや粗	良好
52	弥生式土器 甕	底 票 3.6	外底面はくぼむ。突出する平底。内面はハケナデ、外面タタキ目。	淡灰茶色	やや粗	良好
53	弥生式土器 甕	底 径 4.0	突出する平底、内面ハケ目、外面クタタキ目。	暗茶褐色	粗	良好
54	土 瓶 壺	口 径 16.5	体部から「く」の字に折曲し外反する口縁部。端部は上方へつまみ上げる。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ナデ。外面タタキ目後ハケ目。	茶褐色	粗	良好
55	土 瓶 壺	口 径 11.4	内縁気味に上外方へひろがる。内面斜方向のハケ目。外面ヨコナデ。	淡灰茶色	粗	良好
56	土 瓶 壺	口 径 13.3	上外斜へひろがる。内面斜方向のハラミガキ。外面ヨコナデ。	茶褐色	粗	良好
57	土 瓶 壺 小型瓶	口 径 9.3 器 高 10.3	球形の体部から「く」の字に屈折し、内縁気味にひらく口縁部。端部は丸く終わる。口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケ目。内面ハラミガキ。	淡茶色	密	良好

遺物番号 採取場所	器種	口径 法縫	形態・調整等の特徴	色調	胎上	集成	備考
58	土器 高杯	口 径 19.8	外上方にひらく。端部は丸く終わる。内山横方向のハケ目、外面ナデ。	茶褐色	やや粗	良好	
59	土器 高杯	口 径 11.4	柱状部から腹部は「く」の字状に屈折してひらく。端部はくぼむ面をもつ。柱状部に3孔を穿つ。柱状部内筋しづり目が残る。外面ナデ、底部内外面ナデ。	淡茶褐色	やや粗	良好	
60	土器 高杯	口 径 13.8	口縁部は外反する。端部はわずかに内方に肥厚する。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面へラケズリ。外面ヨコナデ。	淡茶色	やや粗	良好	
61	土器 高杯	口 径 16.8	内面に無い後をもって外反し、端部は丸く終わる。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面へラケズリ。外面ハケ目。	淡灰茶色	粗	良好	
62	土器 高杯	口 径 16.8	外反する口縁部。端部は上方につまみ上げ氣味で丸く終わる。内山ヨコナデ。	淡灰茶色	粗	良好	
63	須恵器 高杯	口 径 10.4	脚部はゆるやかに外へひらく。端部は尖り氣味に丸く終わる。外面凹線文、内面回転ナデ。	灰色	密	良好	6C周 (TK-4)
64	須恵器 高杯	口 径 13.5	内側する口縁部で、内側する口縁面をもつ。端面は外へわざかにふくれる。体部に耳をつける。口縁部内外面回転ナデ。体部内面円形タタキ、外面平行タタキ後回転ナデ。	灰色	密	良好	
65	須恵器 杯身	口 径 11.2	半らに近い直部から斜上方へ内側して受部に至る。受部は上方へ尖り氣味に終わる。立ち上がり部は上方へ伸び、口縁部は丸く終わる。内面受部端より1.8cm以下回転ヘラケズリ。その他内輪ナデ。	淡灰色	密	良好	
66	須恵器 杯身	口 径 11.5	丸味のある底部から斜上方へ内側して受部に至る。受部は丸く終わる。立ち上がり部は上方へ伸び、口縁部は丸く終わる。外面受部端より1.0cm以下回転ヘラケズリ。その他内輪ナデ。	灰色	密	良好	
67	須恵器 杯身	口 径 10.5	平底の底部から斜上方へ内側して受部に至る。淡灰色受部は外上方へ尖り丸く終わる。立ち上がり部は上方へ伸び、口縁部は丸く終わる。外面受部端より1.5cm以下回転ヘラケズリ。その他内輪ナデ。	淡灰色	密	良好	

通物番号 同款番号	器種	口径 法量 高さ	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
68	須恵器 杯蓋	口 径10.0 器 高3.1 つまみ径 7.8	丸い天井部から底面を絞じながら内側して下り口縁部に走る。口縁端部は丸く終わる。内面に断面三角形のかえりをもつ。天井部外側に瘤室珠状のつまみが付く。天井部外側回転ヘラケズリ、つまみナデ、内面回転ナダ。	淡灰色	密	良好	
69 九	須恵器 杯	口 径22.8 器 高2.4	平らな底面から内側きみに立ち上がる口縁部。端部は面をもつ。内外面内輪ナダ。	淡灰色	密	良好	
70	土師器 杯	口 径12.0 器 高2.5	平らな底面から外上方へ伸びる口縁部。端部は尖りぎみに丸く終わる。内外面ナダ。	淡乳茶色	密	良好	
71	土師器 高杯		九角形の脚柱部、内面ナダ、外側ヘラミガキ。	淡茶色	密	良好	
72	土師器 羽釜	口 径26.4	ほぼ垂直に伸びる体部、斜上方へ外反する口縁部である。押はわずかに外上方へ伸び丸く終わる。体部内面指頭ナダ、外側ナダ。口縁部内外面ヨコナダ。	暗茶色	粗	良好	

SK-102

通物番号 同款番号	器種	口径 法量 高さ	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
73	土師器 小豆甌	口 径10.2	球形の体部から「く」の字に曲がる口縁部。口縁部内面ハケ目、外側ヨコナダ。体部内外面ハケ目。	茶褐色	粗	良好	
74 一〇	土師甌	口 径13.8	「く」の字に外反する口縁部。内面ヨコナダ、外側ハケ目。体部内面ナダ、外側ハケ目。	茶褐色	粗	良好	
75 一〇	土師甌	口 径15.1	外反し角度をかえ、直上へ伸びる口縁部。口縁端部は丸く終わる。内面ヨコナダ、外側ヨコナダ。	淡茶色	密	良好	

遺物番号 回収番号	器種	寸法 法量	形態・調査等の特徴	色調	胎土	構成 備考
76 ○	上器 小型皿	口 径 9.8	丸柱のある体部から外反し、一度角度をかえ 上方へ伸びる口縁部。輪郭は丸く終わる。 口縁部内外面ヨコナギ。体部内面下方指頭ナ チ上方ナヂ。外面下方ハケ日、上方ナヂ。	茶色	粗	良好

第4調査区包含層

遺物番号 回収番号	器種	寸法 法量	形態・調査等の特徴	色調	胎土	構成 備考
77 ○	弥生式土器 盆	口 径 15.4	直立ぎみに伸びる頸部から上方へ伸びる口 縁部。口縁部は下方へつまら面をもつ。口 縁部、頸部内外面ヨコナギ。口縁部面に竹管 内形押左文を施す。	淡茶褐色	やや粗	良好 弥生時代後 期
78 ○	弥生式上器 盤	口 径 13.4	上方へひろがる頸部から外反する口縁部に よる。口縁部は斜下方に伸びる面をもつ。 口縁部、頸部外面ヨコナギ。	茶褐色	粗	良好 弥生時代後 期
79 ○	弥生式上器 盤	底 径 4.1	突出する平底の底部。内面ハケ日、外面ナヂ あり。	淡茶色	粗	良好
80 ○	弥生式上器 盤	底 径 6.0	突出する平底の底部。内面ヘラによる工具痕 あり。外面ナヂ。	淡茶色	粗	良好
81 ○	弥生式上器 盤	底 径 3.6	突出しない平底の底部。内面ヘラによる工具 痕あり、外面ナヂ。	淡乳茶色	粗	良好
82 ○	弥生式土器 盆	底 径 3.5	突出する平底の底部。内外面ナヂ。	淡茶褐色	やや粗	良好
83 ○	弥生式土器 盤	底 径 3.6	平らにひらく底部。底部は突出し、底面はく びむ。内外面ナヂ。	茶色	やや粗	良好
84 ○	弥生式上器 盤	底 径 4.6	突出ぎみの底部。底面はくびむ。内外面指頭 ナヂ。	暗灰茶色	粗	良好

遺物番号 試験番号	器 横 底 径	口縁 底 径	形態・測定等の特徴	色 調	胎 上	性 成 備考
85 一〇	弥生式十唇 壺	底 径 3.7	突出ぎみの底部。底面はくぼむ。内面ヘラによる工具痕あり。外面ナゲ。	乳茶色	密	良好
86 一一	弥生式十唇 壺	底 径 4.5	突出する底部。底面はくぼむ。内面ヘラによる工具痕あり。外面ナゲ。	茶褐色	密	良好
87 一二	弥生式上器 鉢	口 径 24.8	ゆるやかに外上方へひらがる体部から「く」の字に外反ぎみに立ち上がる口縁部に至る。口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナゲ。	淡茶色	やや粗	良好
88 一二	弥生式上器 高杯	口 径 24.8	平たくひらく体部から外反する口縁部。内外面とも淡黄茶色。口縁部内外面ヨコナデ。	淡黄茶色	やや粗	良好
89 一二	弥生式上器 鉢	口 径 14.7	外反する口縁部。端部は上方につまみ上げる。茶褐色。口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナゲ。	茶褐色	粗	良好
90 一二	弥生式十唇 壺	口 径 18.0	やや盛りのある体部から「く」の字に屈曲し外反ぎみに立ち上がる口縁部。口縁端部は上方へつまみ上げる。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ハケ目。外面タタキ目。	淡茶色	やや粗	良好
91 一二	弥生式七唇 壺	底 径 2.8	突出ぎみの底部。底面はくぼむ。内面ヘラによる工具痕あり。外面タタキ目。	茶褐色	やや粗	良好
92 一二	弥生式七唇 壺	底 径 3.1	突出する底部。底面はくぼむ。内面ハケ目。外面タタキ目。	茶褐色	やや粗	良好
93 一二	弥生式十唇 壺	底 径 4.0	突出する底部。底面はくぼむ。内面ハケ目。外面タタキ目。	淡茶色	やや粗	良好
94 一二	弥生式七唇 壺	底 径 3.8	突出する底部。底面はくぼむ。内面ナゲ。外面タタキ目。指痕ナゲ。	茶褐色	密	良好

遺物番号 測定番号	器種	(cm) 寸法 横幅 厚さ	形態・調整等の特徴	色調	船上	焼成	備考
95 一一	弥生式土器 盤	底 径 2.2	突出する平底の底部。内面ナデ。外面タキ 目。指頭ナデ。	淡茶褐色	やや粗	良好	
96	弥生式土器 盤	底 径 3.6	突出する平底の底部。内面ナデ。指頭ナデ。 外面タキ目。	茶褐色	粗	良好	
97 一一	弥生式土器 盤	底 径 2.7	突出しない平底の底部。内面ナデ。外面タキ 目。	淡乳茶色	粗	良好	
98 一一	土器 體	口 径 15.4	平らな体部から水平近く外反し、角度をかえ 外縁してひらく口縁部。端部は尖りきみに終わる。 内外面ヘラミガキ。	茶色	密	良好	
99 一一	土器 器台	高 径 10.1	「ハ」の字にひらく概説。内面ハケ目。指頭 ナデ。外面ヘラミガキ。	淡茶色	密	良好	
100	土器 器	口 径 18.1	外反する口縁部。端部はつまみ上げる。口縁 或内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。外面ハケ 目。	茶褐色	粗	良好	
101	土器 器	口 径 18.2	外反する口縁部。端部は丸く終わる。内外面 ヨコナデ。	淡茶褐色	粗	良好	
102	土器 器	口 径 17.0	外反する口縁部。端部はつまみ上げる。内外 面ヨコナデ。	淡茶褐色	やや粗	良好	
103 一一	土器 器	口 径 17.6	外反する口縁部。端部はつまみ上げる。端面 はややぼけ。内外面ヨコナデ。	茶褐色	やや粗	良好	
104	土器 器	口 径 15.0	外反する口縁部。端部はつまみ上げる。内面 ハケ目。外面ヨコナデ。	淡茶褐色	やや粗	良好	

器物番号 回収番号	器 様 (cm)	口径 法盤 高さ	形 態・調 整 等 の 特 徴	色 調	脂 土	燒 成	備 考
105	土 簡 器 甌	口 径 14.0	外反する口縁部。端部はつまみ上げ丸味をもつて終わる。内外面ヨコナデ。	暗茶褐色	やや粗	良好	
106	土 簡 器 甌	口 径 15.2	外反する口縁部。端部は尖り気味に終わる。内外面ヨコナデ。	暗茶褐色	やや粗	良好	
107	土 簡 器 甌	口 径 23.6	外反して水平近くにひらいた後、角度をかえ外反する口縁部。端部は丸く終わる。内外面ヨコナデ。	茶褐色	密	良好	
108	土 簡 器 甌	口 径 12.8	丸味のある体部から「く」の字に開きし内壁氣味に立ち上がる口縁部。口縁部内面ハケ日。外面ヨコナデ。体部内面ナデ、外面ハケ日。	茶褐色	密	良好	
109	土 簡 器 甌	口 径 13.0	球形の体部。外上右へひらく口縁部。口縁部内面ハケ日、外面ヨコナデ。体部内面ナデ、外面ハケ日。	淡乳茶色	粗	良好	
110	土 簡 器 甌	口 径 15.8	丸味のある体部からやや内壁して立ち上がる口縁部。端部は丸く終わる。口縁部内面ヨコナデ。体部内面ハラミガキ。外面ハケ日。	淡乳茶色	やや粗	良好	
111	土 簡 器 甌	口 径 13.6	外反する口縁部。端部は丸くつまみ上げる。口縁部内面ハケ日。外面ヨコナデ。体部内面ハケ日。内面ヨコナデ。外面ハケ日。	乳白色	密	良好	
112	須 恵 器 杯身	口 径 14.7	内傾して立ち上がる口縁部。受部は水平にひらく。口縁部、受部内外面回転ナデ。体部内面ヨコナデ。外面下半回転ヘラケズリ。	灰褐色	密	良好	

第3次調査

SD-101

遺物番号 測定番号	器種	(cm) 口径 法規 第25 基準 基高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 瓦 瓶	口 径 15.0		上外方へ直線的に伸びる部から器肉を減じて上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は尖りきみに終わる。体部内外面ヘラミガキ。口縁部内外面ヨコナデ。	灰黒色	密	良好	

SD-103

遺物番号 測定番号	器種	(cm) 口径 法規 第25 基準 基高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
2 瓦 小皿	口 径 10.8		上外方へ直線的に伸びる口縁部。口縁部内外面ともヨコナデ。	灰黒色	密	良好	

SD-107

遺物番号 測定番号	器種	(cm) 口径 法規 第25 基準 基高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
3 陶生式土器 壺	口 径 26.8		水平近くにひらく口縁部。端部は上下方に肥厚する。口縁部内外面ヨコナデ。端面に瘤状文を施す。	赤褐色	粗	良好	箱型模式
4 上 築 器 小型壺	口 径 9.4		扁球形の体部。口縁部は外上方にひらく。端部は尖る。口縁部内外面ヘラミガキ。体部内面ナデ、外側ヘラミガキ。	赤茶色	密	良好	
5 上 築 器 小型壺	口 径 11.0		扁球形の体部。口縁部は外上方へ少し内側しながらひらく。端部は丸く終る。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	淡茶灰色	粗	良好	
6 土 築 器 壺	口 径 14.2		外反する口縁部。端部は外傾する面をもつ。口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	やや粗	良好	
7 土 築 器 壺	口 径 12.6		外反する口縁部。端部は外傾する面をもつ。口縁部内外面ヘケロ。体部内面ヘラミガキ、外側ヘケロ。	淡茶色	粗	良好	
8 上 築 器 壺	口 径 16.6		内側する口縁部。端部は外傾する丸味のある面をもつ。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、外側ヘケロ。	淡乳茶色	粗	良好	

器物番号 記載番号	器種	(cm) 口径 法線 高さ	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成 良好	備考
9	土器 高杯	口 径 14.6	内壁にひらく口縁部。端部は上方へ突り ぎみにつまむ。口縁部内外面ヨコナダ。体部 内面へラケツリ、外面ハケ日。	淡灰茶色	やや粗		
10	土器 高杯	口 径 15.8 三	外反ぎみにひらいた後角度をかえ上方へのび る口縁部。端部は丸く終わる。口縁部内外面ヨ コナダ。体部内面へラミガキ、外面ナダ。	乳茶色	粗	良好	
11	土器 高杯	口 径 17.0	水平な杯底部から上外方へひらく。柱上部は 中位で脇らみをもつ。杯部内外面ナダ。柱状 部内面しづら日が残る。外面ハミガキ。	茶褐色	密	良好	
12	土器 高杯	幅 径 12.2	柱状部から角度をかえてひらく底部。内外面 ナダ。	茶褐色	密	良好	

S D - 209

器物番号 記載番号	器種	(cm) 口径 法線 高さ	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成 良好	備考
13	土器 小皿	口 径 7.0	平坦な底盤から外上方へ立ち上がり口縁部に 至る。端部は丸く終わる。口縁部、体部内外 面ヨコナダ。	茶褐色	密	良好	
14	土器 小皿	口 径 7.6	やや外反しながら立ち上がる口縁部。端部は 尖りきみに丸く終わる。口縁部内外面ヨコナ ダ。	乳茶褐色	密	良好	

S D - 222

器物番号 記載番号	器種	(cm) 口径 法線 高さ	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成 良好	備考
15	瓦 輪	口 径 15.6	上方に向って伸びる口縁部。端部は尖り きみに丸く終わる。体部内面へラミガキ、外 面ナダ、口縁部内外面ともにヨコナダ。	灰黑色	密	良好	

第1調査区 包含層

遺物番号 回収番号	品種	(cm) 口径 法縫 基面	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
16	牛式土器 底	底 径 7.5	突出する平底。底部内外面ナデ。	淡褐色	やや粗	良好	
17	七輪 盤	口 径 15.6	外反して立ち上り、内外面に明顯な段をなし て内脛ぎみにひらく口縫部。	淡灰茶色	やや粗	良好	
18	上 盤 裏	口 径 15.0	外反する口縫部。端部は上方へ尖りぎみにつ む。口縫部内外面ヨコナデ。	淡褐色	やや粗	良好	
19	十 輪 盤	口 径 15.2	外反する口縫部。端部は上方へ丸くつまむ。 口縫部内外面ヨコナデ。	淡灰褐色	やや粗	良好	
20	円 埴輪 片	タガ径 20.5	台形のタガ。内面ナデ。外面横・ナメ方向 のハケ目。	淡黄色	やや粗	良好	
21	須 恵 器 高杯	口 径 14.5	内脛し、角度をかえ外反する杯部。外面に或 灰状文と2条のつまみ出し凸巻を施す。	灰色	密	良好	
22	須 恵 器 杯蓋	口 径 11.6	丸味のある天井部。口縫部は内傾する凹面 をもつ。外面に縞がある。	淡灰色	密	良好	
23	須 恵 器 平瓶 器 高 10.3	天井部にふくらみをもち、底部は半たい平底 である。口縫部は外上方へひらく。器体は肩 部および底部と腹部との境界に腰を有し、腰 部には切跡をめぐらす。	灰色	密	良好		二
24	瓦 小皿	口 径 10.0	口縫部は外反する。端部は尖りぎみに終る。 底部は平らである。内外面ナデ。	灰黑色	密	良好	
25	瓦 器 輪	口 径 12.8	内脛ぎみに立ち上り端部は外反する口縫部に なる。端部は尖る。内面ヘラミガキ。外面ナ デ。	灰黑色	密	良好	

遺物番号 回収番号	器種	(cm) 口径 法量	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
26	瓦 瓶	口径 13.4	内側に立ち上り外上方へひらく口縁部へ至る。瓶頸は尖りぎみに終る。内面ヘラミガキ。外面指頭圧成後ナダ。	茶灰色	密	良好	
27	土器 瓶 小瓶	口径 8.2	上外方へひらく。端部は丸く続る。内外面ヨコナダ。	茶灰色	密	良好	
28	土器 瓶 小瓶	口径 8.0 高 2.1	平坦な底部から外反しながらひらき、口縁は膨らむ。口縁部内外面ヨコナダ、底部指頭圧成後ナダ。	淡茶色	密	良好	
29	瓦 瓶 壺	口径 34.8	上外方へひらく口縁部。外面ヘラケズリ。内面には9本一単位の捲目に入る。	灰黒色	やや粗	良好	

S X-101

遺物番号 回収番号	器種	(cm) 口径 法量	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
30	須恵器 壺用蓋	口径 5.8	平底に近い天井部。かえりは内傾している。天井部には中央くぼむつまみがある。天井部外周回転ヘラケズリ、内面回転ナダ。かえりおよびつまみ部回転ナダ。	灰色	密	良好	
31	須恵器 長颈壺	口径 9.4 高 24.8 幅 高 12.7	体部は肩がはった錐球形である。口縁部は上外方にひらく。瓶頸は斜下方に伸びてやや内傾する。瓶頸部はくぼむ曲をもつ。口縁部内外面回転ナダ。体部内面回転ナダ。外面上位回転ナダ。下位回転ヘラケズリ。脚部内外面回転ナダ。脚部に長方形と三角形の透しを三方に有している。体部上位外面上にヘラによる沈線文が2ヶ所施されている。	灰色	密	良好	
32	須恵器 長颈壺	幅 高 12.2	体部は球形である。瓶頸は斜下方に伸びてやや内傾する。瓶頸部は曲をもつ。体部内面下部指頭圧成後ナダ。上位回転ナダ。脚部内外面回転ナダ。脚部に長方形の透しを西方に有している。	灰色	密	良好	
33	須恵器 短颈壺	口径 7.9 高 5.8	半球形に近い体部から直立きみに立ち上る。瓶頸部に並る。端部は火る。口縁部内外面回転ナダ、体部内面回転ナダ、外面上位回転ナダ、下位回転ヘラケズリ。	灰色	やや粗	良好	

遺物番号 測定番号	器種	(cm) 口徑 法量 測高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
34	須 沢 器 高杯	口 径 12.8 器 高 18.1 器 徑 11.5	杯部は基部より上外方に伸び外傾ぎみに立ち上り。口縁部で外反する。輪郭は尖る。杯口部外面に刻点文を施し、その上下に一帯の凹面をめぐらす。輪郭は輪郭部よりやや内傾し、後へゆるやかに下外方に伸び輪郭近くで内傾する。端部は丸味のある丸窓である。脚部は2段3万造しを有し、中央に二条の凹腹をめぐらす。杯部外面底底底に輪郭ナメ、内面回転ナメ、脚部内面上位シリコナメ下位輪郭ナメ、外側上位回転カキ口、下位回転ナメ。	灰褐色	やや粗	良好	
35	須 沢 器 堆塑	口 径 4.8 器 高 20.3	口縁部は口頭基部より内壁ぎみに立ち上り、輪郭は外反する。端部は尖る。体部に一对のカギ状把手がある。体部は回転カキ口。口輪郭は回転ナメ。	灰褐色	やや粗	良好	
36	上 鋸 器 杯	口 径 11.4 器 高 5.9	平底な底部。内壁ぎみに立ち上る体部から外反する口縁部に至る。端部は尖る。口輪郭は内外面ヨコナメ、体部内外面ナメ。	灰茶色	密	良好	

S X-101 填丘内

遺物番号 測定番号	器種	(cm) 口徑 法量 測高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
43	分生式上器 鉢		虫食近くに伸びる口縁部。口縁部間に1条、口縁部下間に2条の凹線文を施す。外面に波状文。	茶褐色	やや粗	良好	第Ⅱ様式
44	上 總 器 盤	口 径 16.6	外反する口縁部。端部は上方に尖る。口縁部内外面ヨコナメ。	灰茶褐色	やや粗	良好	
45	土 筒 器 壺	口 径 15.4	外反する口縁部。端部は丸く終る。口縁部内外面ヨコナメ。	茶褐色	やや粗	良好	
46	土 筒 器 壺	口 径 11.2	内壁しながら立ち上る口縁部。端部は丸く終る。口縁部内外面ヨコナメ、体部内外面ナメ。	茶褐色	やや粗	良好	
47	土 筒 器 壺		体部上半に最大径をもつ。底部は丸味がある。体部内面上位指輪圧成形、下位ナメ。外面上位ヘリミガキ、下位ナメ	茶褐色	やや粗	良好	

動物番号 区分番号	器種 (cm)	口徑 法量 容積	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼上	備考
48 二五	須立器 知鶴山		体部は最大径を上半にもち肩がる。底部は平らである。口縁部は矢張りしている。	淡灰色	やや粗	良好	
49 二五	須立器 杯身	口 径 8.8	立ちあがりは短くやや内傾する。端部は丸く終る。受器はやや外上方に伸び丸く終る。底部は半円である。内面回転ナゲ、外面上位回転ナゲ。下位回転ヘラケズリ。	灰色	密	良好	
50 二五	須立器 杯身	口 径 9.2	立ちあがりは短く内傾する。直立して伸びて丸く終る。受器はやや外上方に伸び丸く終る。底部は半円である。内面回転ナゲ、外面上位回転ナゲ、下位回転ヘラケズリ。外側底部に三本の線刻を施している。	灰色	やや粗	良好	

SD-111

動物番号 区分番号	器種 (cm)	口徑 法量 容積	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼上	備考
51 二五	土師器 小皿	口 径 8.2 高 1.8	底面から丸く立ち上がり、斜上方へ内傾して伸びる口縁部に至る。端部は外折する丸みのある面をもつ。口縁部内外面ヨコナゲ、底部内面ナゲ、外側陶粒成形。内面にヘタガキによる平行線がある。	乳灰系色	密	良好	
52	瓦	高台径 3.6	半坦な底部に断面近二角形の高台が垂直に付く。込込み格子状ヘタミガキ、底部外周、高台部ナゲ。	黒色	密	良好	

NR-101

動物番号 区分番号	器種 (cm)	口徑 法量 容積	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼上	備考
53	弥生式土器 壺	口 径 14.0	上外方へ外反する口縁部。端部は面をもつ。口縁部内外面ヨコナゲ。	淡褐色	密	良好	
54	弥生式土器 壺	底 径 5.2	突出する平底。内外面ナゲ。	灰系色	やや粗	良好	
55	土師器 壺	口 径 14.0	斜上方へ外反する口縁部。端部は上部へつよみ尖る。口縁部内外面ヨコナゲ。	淡茶色	密	良好	

遺物番号 登録番号	器種	(cm) 口径 法量 - 瓶身	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成備考
56	須恵器 杯身	高台径 10.8	「八」の字にひらく高台部。平坦な底部から上方へ直線的に伸びる。高台は貼り付けている。内外面凹凸ナゲ。	灰色	密	良好
57	上ыш器 小皿	口 径 11.8 二五	斜上方へ内側さみに伸びる口縁部。端部は丸い。軽部は丸い。口縁部内外面ヨコナゲ、底部内面指輪圧成形、外側ナゲ。	淡茶褐色	密	良好
58	土瓶器 小瓶	口 径 9.0	平らに近い底部から斜上方へ立ち上がって外反し。ほぼ水平に伸びる口縁部に弧する。端部は尖る。口縁部内外面ヨコナゲ、底部内外面ナゲ。	茶色	密	良好
59	瓦器 楕	高台径 3.9	平坦な底部に断面逆三角形の高台が「八」の字形に開いて付く。見込み格子状のヘラミガキ、底部外側、高台部ナゲ。	灰白色	密	良好
60	瓦器 楕	口 径 16.8	斜下方へ内側しながら伸びる体部からわずかに外反する口縁部に弧する。端部は丸い。口縁部内外面ヨコナゲ、体部内面ヘラミガキ、外側ナゲ。	灰黒色	密	良好
61	瓦器 楕	口 径 15.4	外下方へ内側して伸びる体部からわずかに外反する口縁部に弧する。端部は丸い。口縁部内外面ヨコナゲ、体部内面ヘラミガキ、外側指輪圧成形。	灰黒色	密	良好

SE-201

遺物番号 登録番号	器種	(cm) 口径 法量 - 瓶身	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
62	上ыш器 小皿	口 径 8.6	平坦な底部から外上方へひらく口縁部。端部は淡茶褐色で尖りさみに終る。内外面ナゲ。	淡茶褐色	密	良好	
63	瓦器 楕	口 径 12.6	外下方へ内側して伸びる口縁部。内面ヘラミガキ、外側指輪圧成形後ナゲ。	淡灰黒色	密	良好	

第2調査区 包含層

遺物番号 回収番号	器種	(cm) 口径 基部	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
64 二五	弥生式土器 甕	口 径24.1	斜上方へ外反して伸びる口縁部。縁部は下方に垂下し外側する山をもつ。口縁部内外面ヨコナデ、口縁端部には簾状文を施している。	淡茶色	やや粗	良好	
65	弥生式土器 高杯	口 径13.3	水平に広がった口縁部端が垂下する。口縁部内端に凸線を施す。口縁部内外面ヨコナデ。	淡灰茶色	密	良好	
66 二五	弥生式土器 甕	口 径27.0	水平にひらいた後外上方へ伸びる口縁部。口縁部内外面ヨコナデ、外面に円形浮文を施す。	淡茶褐色	やや粗	良好	
67	弥生式土器 甕	底 径4.8	突出する平底である。内面ハケ目の中ナデ、外側ナデ。	淡茶褐色	やや粗	良好	
68	弥生式土器 甕	底 径5.7	突出する平底である。内面ハケ目、外側ヘラカギナデ。	茶褐色	やや粗	良好	
69 二六	弥生式土器 甕	底 径4.6	突出する平底である。内面ハケ目、外側ヘラカギナデ。	暗褐色	密	良好	
70	土師器 鉢	口 径15.1	上外方へ内側して伸びる体部。口縁部は水平近く外反した後、角度をかえ外側してひらく。端部は尖る。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ハケ目、外側ヨコナデ。	茶褐色	密	良好	
71	土師器 鉢	口 径15.9	上外方へ内側して伸びる体部。口縁部は水平近く外反した後、角度をかえ外反ぎにひらく。端部は尖る。口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	茶褐色	密	良好	
72	土師器 甕	口 径15.6	外上方へ外反ぎに伸びる口縁部。端部はつまみ上げぎみに丸く終る。口縁部内外面ヨコナデ。	灰茶色	やや粗	良好	
73	土師器 甕	口 径17.2	外上方へ外反して伸びる口縁部。端部はつまみ上げる。口縁部内外面ヨコナデ	淡褐色	やや粗	良好	

遺物番号 出所番号	器種	(a) 口径 底量 高さ	形態・圖像等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
74 二六	須恵器 杯蓋	口径 11.3 器 高 4.5	丸味のある天井部。口縁部と天井部の界に縫がある。内面回転ナデ。	灰色	密	良好	
75 二六	須恵器 杯蓋	口径 10.9 器 高 4.5	平らに近い天井部から鈍い棱をもつて口縁部がほぼ垂直に下る。口縁端部は凹面をなす。内面全体及び外面縁底上まで回転ナデ。天井部外側回転ヘラケズリ。	灰色	密	良好	
76 二六	須恵器 杯蓋	口径 14.9 器 高 4.3	丸味のある天井部。口縁部と天井部の界に縫がある。口縁端部は凹面をなす。内面全体及び外面縁底上まで回転ナデ。天井部外側回転ヘラケズリ。	暗灰色	密	良好	
77 二六	須恵器 杯蓋	口径 14.6 器 高 4.5	平らに近い天井部から鈍い棱をもつて口縁部が下外方に下る。口縁端部は凹面をなす。内面全体及び外面縁底上まで回転ナデ。天井部外側回転ヘラケズリ。天井部内面に同心円文タタキ目を施す。	淡灰色	密	良好	
78 二六	須恵器 器台		台底底面は平らに近い。脚部は下外方にやや垂直にひらく。脚部外面に成文化を施す。脚部には長方形の溝を四方施している。	暗灰色	密	良好	
79 二六	土器 小皿	口径 8.0	平らな底部から上外方へひらく口縁部に平る。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。	灰茶色	密	良好	
80 二六	土器 山皿	口径 15.8	斜上方へ直線的にひらく口縁部。底部は尖る。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。外面指印圧形成。	灰茶褐色	密	良好	
81 二六	瓦器 小皿	口径 9.2	平らに近い底盤から外反する口縁部である。底盤は丸い。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ヘラミガキ。	灰黒色	密	良好	
82 二六	瓦器	口径 16.1	内壁きみに伸びる体部。口縁端部は丸く終る。内面ヘラミガキ。外面指印圧形成。	暗灰色	密	良好	
83 二六	瓦器	口径 16.8	斜上方へ内側ぎみに伸びる口縁部に平る。口縁部は外へ大きく折返し玉縁状の口縁を生ずる。	乳灰色の釉 緩密		堅強	

第3調査区 SD-112

井戸番号 測量番号	器 種	(cm) 口 径 法量 器高	形 態 ・ 調 整 等 の 特 徴	色 調	給 土	構 成	備 考
84	土 器 類	口 径 17.0	上外方へ外反しながらひらく口縁部。端部は上方へ尖る。口縁部内面ハケ目。外面ロコタデ。	茶褐色	やや粗	良好	
85	土 器 類	口 径 16.9	斜上方に吉綱的に伸びる。端部は尖る。口縁部内外面ロコタデ。	淡茶褐色	やや粗	良好	
86	瓦 類	22 高台径 5.3	平らに近い底部。断面近三角形の高台をもつ。灰黒色の字形につけらる。	灰	粗	良好	

第5章 まとめ

第2次調査

調査の結果、古墳時代前期と鎌倉時代の遺構・遺物を検出した。

古墳時代前期の遺構は、第2調査区で検出したSD-101や第4調査区で検出した小穴群などがある。検出面は第5層上面で、時期は、布留式期の新しい段階である。第5層は、弥生時代の後期から古墳時代の初頭にかけての大きな流路の堆積土で、粗砂や礫が主であり、北または北西流していると言われている。この流路が埋没した後の布留式期の居住域があることが今回の調査でわかった。^{註1}

鎌倉時代は溝や土坑の検出があった。当調査地の南東に近隣している大阪府教委昭和58年度調査地では中世以降の斷溝を検出しておらず当地域一帯が牛廻の場であったといわれている。^{註2} おそらく、当調査地も、生産域であったと思われる。

第3次調査

調査の結果、古墳時代前期・後期、鎌倉時代後期、近世の遺構・遺物を検出した。

第1・2調査区の第2調査面で検出した東西方向・南北方向に細長く伸びる溝は、中世の断溝である。大阪府教委昭和58年度調査では中世以降のスキ溝を検出しておらず、今回の調査地も生産域であったことがわかった。^{註3}

第2調査区の第1調査面で検出した古墳は、古墳時代の後期（6世紀後葉）に比定されるもので、河内平野低地部で検出された古墳の中では新しい古墳である。平野部では、昭和49年に長原遺跡で古墳が確認されて以来、古墳時代前期から後期中葉に至る古墳が巨摩魔寺遺跡（方墳^{註4} 5世紀末～6世紀初）、山賀遺跡（方墳 6世紀中）、萱振遺跡（方墳 4世紀初）、美園遺跡（方墳 4世紀初）等で検出されている。^{註5} 6世紀の古墳については、中葉に山賀遺跡で検出した古墳が築造されるのを最後に、平野部では古墳の築造は停止すると考えられていた。しかし、今回の調査により6世紀後葉まで築造していることが明らかになった。この時期には、八尾市域では生駒山地西麓（高安古墳群）に多くの古墳が群集して築造されている。この時期平野部で検出された今回の古墳は、河内平野低地部の6世紀代の古墳を考える上で重要な資料である。また平野部の集落との関係、西麓部の群集墳との関係を明確にする一つの手がかりになる資料である。

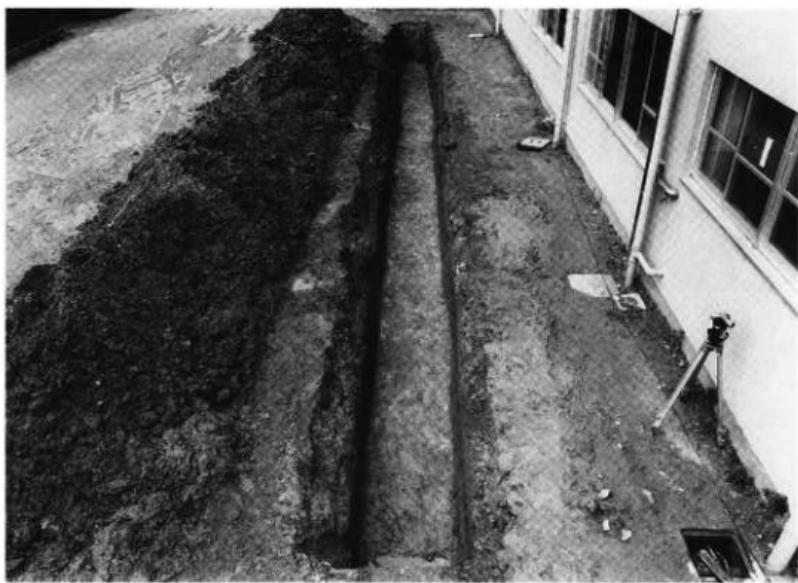
註1 大阪府教育委員会：萱振遺跡現地説明会資料

註2 大阪府教育委員会『萱振遺跡発掘調査概要・II』1986

註3 前掲註2

- 註4 長原遺跡調査会『長原遺跡発掘調査』資料編 1976
- (財)大阪文化財センター『長原』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1978
- 註5 (財)大阪文化財センター『伊摩・瓜生堂』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1981
- 註6 (財)大阪文化財センター『山賀(その2)』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1983
- 註7 大阪府教育委員会『菅板遺跡現地説明会資料Ⅰ』1984
- 註8 (財)大阪文化財センター『美園』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1985

図 版



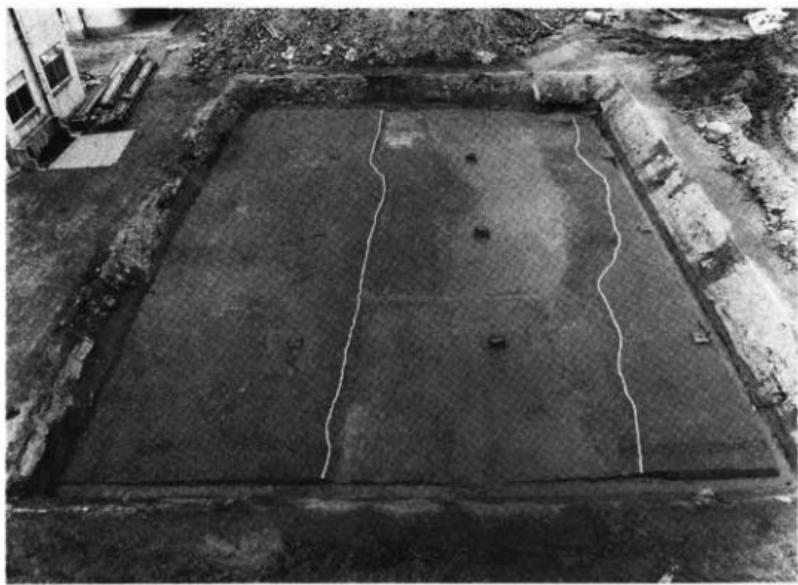
第2次調査第1調査区 全景（西から）



同上 第2調査区 第1調査面 全景（南から）



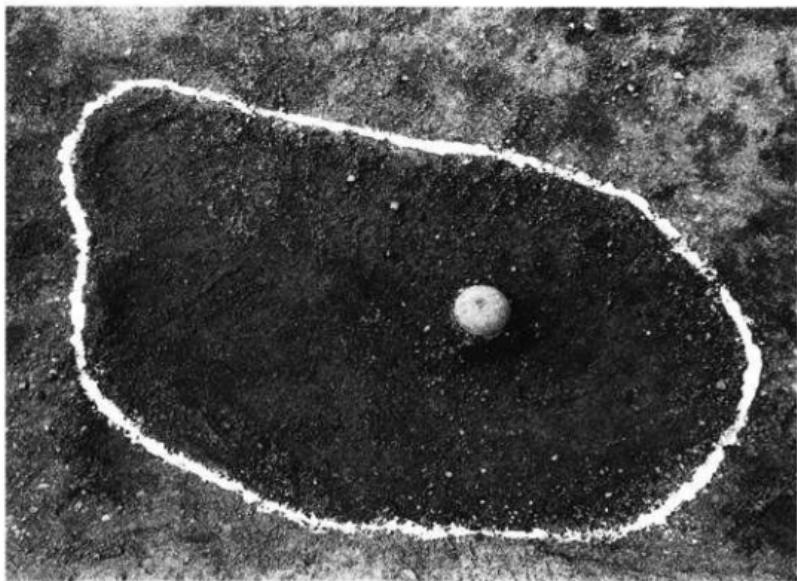
第2次調査第2調査区 SD-101 遺物出土状況（南から）



同上 第2調査区 第2調査面 全景（南から）



第2次調査第3調査区 第1調査面 全景（南から）



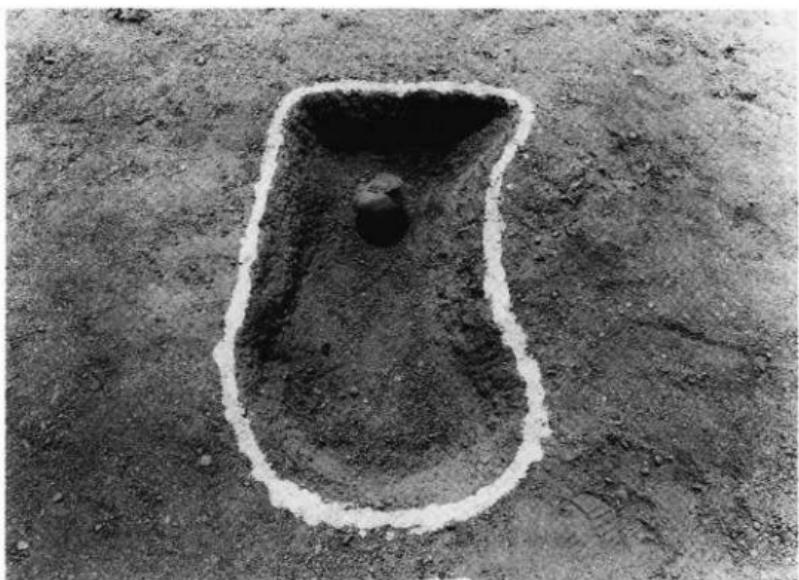
同上 第3調査区 SK-101（南から）



第2次調査第3調査区 第2調査面 全景（南から）



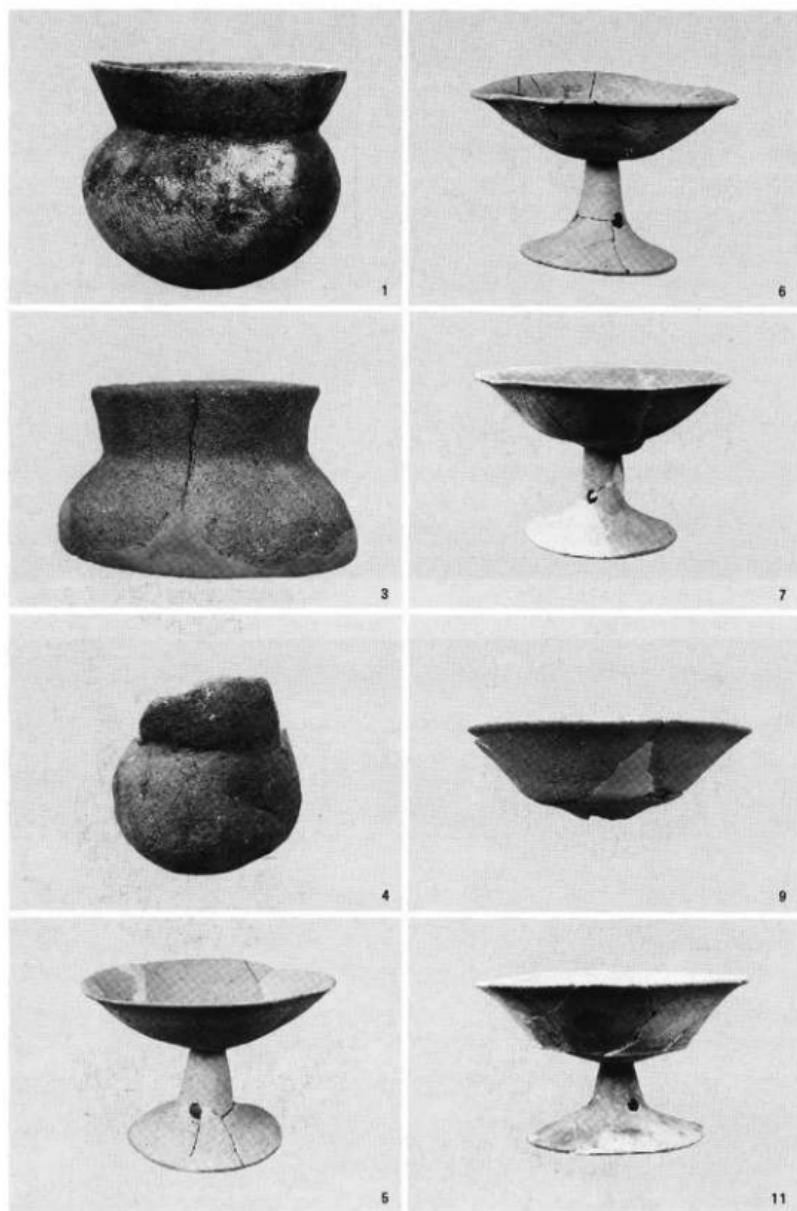
同上 第4調査区 全景（東から）



第2次調査第4調査区 SP-137 (東から)



同上 第4調査区 SP-137 遺物出土状況 (東から)



第2次調査 SD-101



13



18



15



20



16



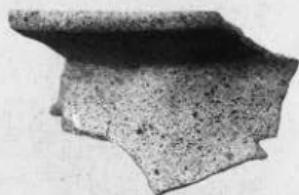
21



17



22



25



26



28



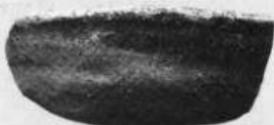
33



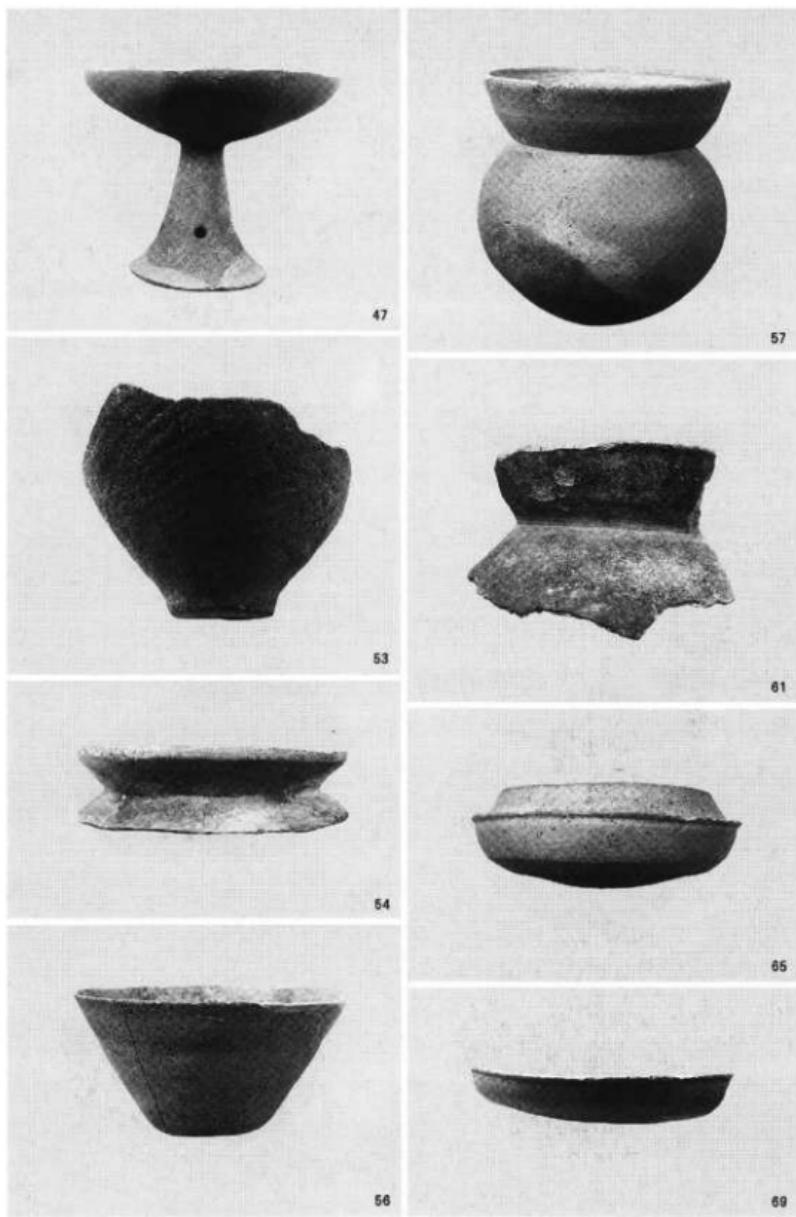
35

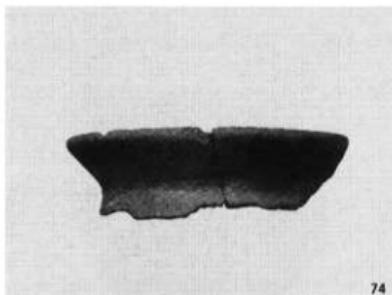


29



42





74



78



75



79



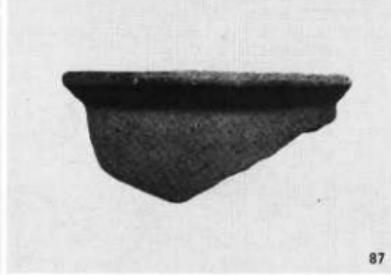
76



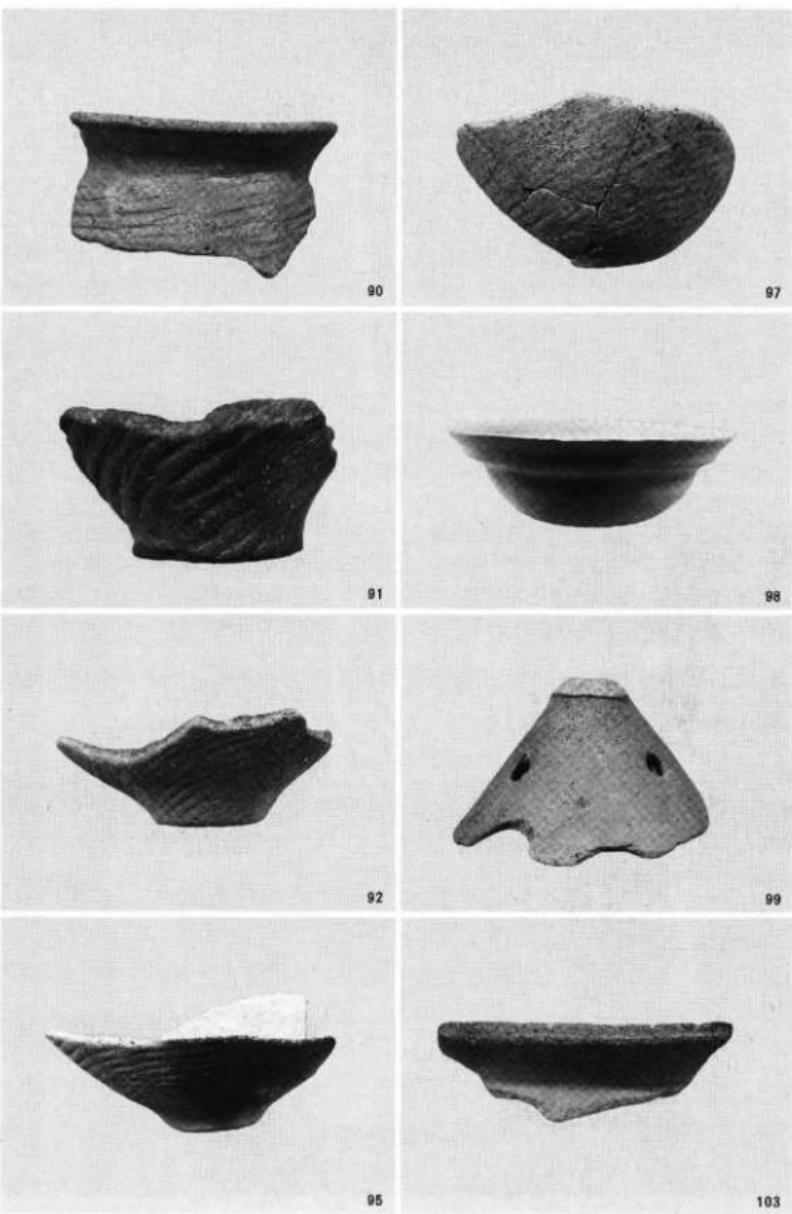
84



77



87

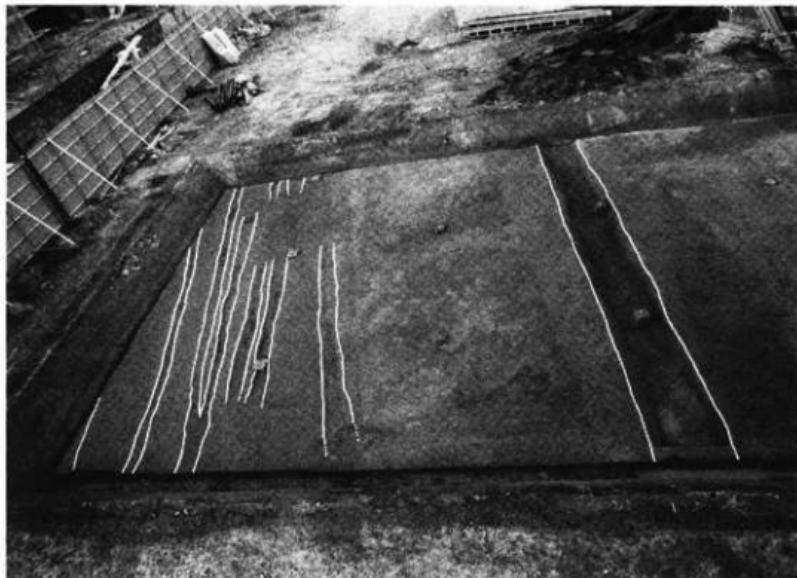




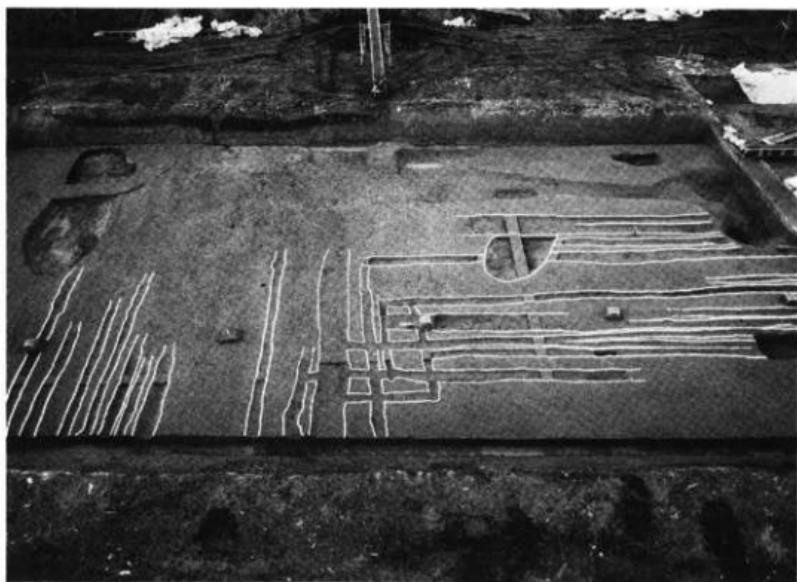
第3次調査 第1調査区第1調査面 全景



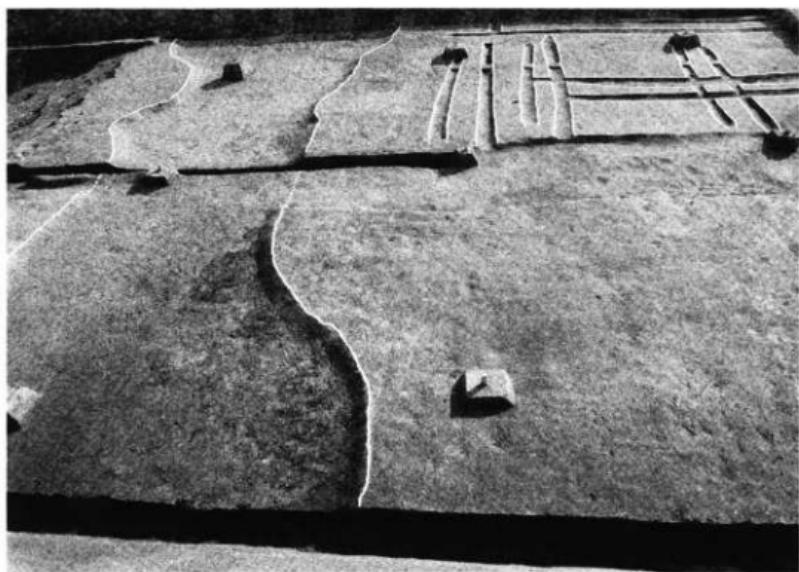
第3次調査第2調査区・第3調査区 第1調査面 全景



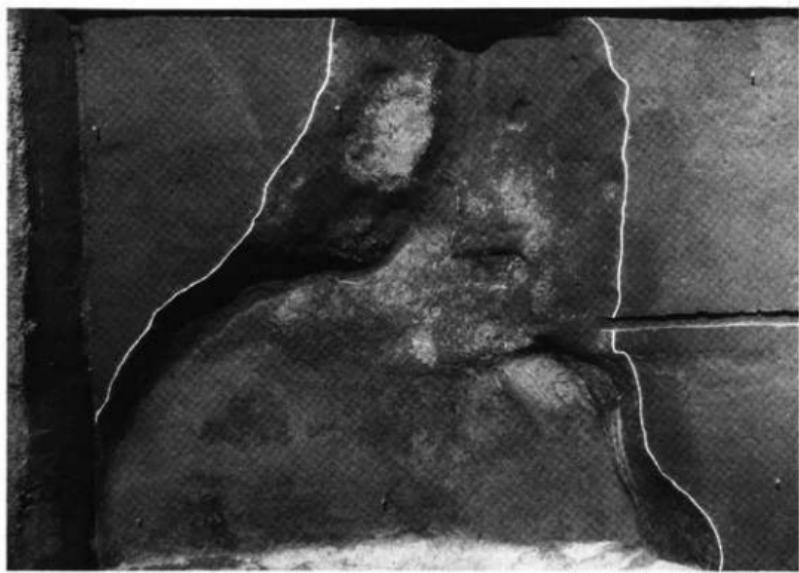
第3次調査第1調査区 第2調査面 全景1（南から）



同上 2（南から）



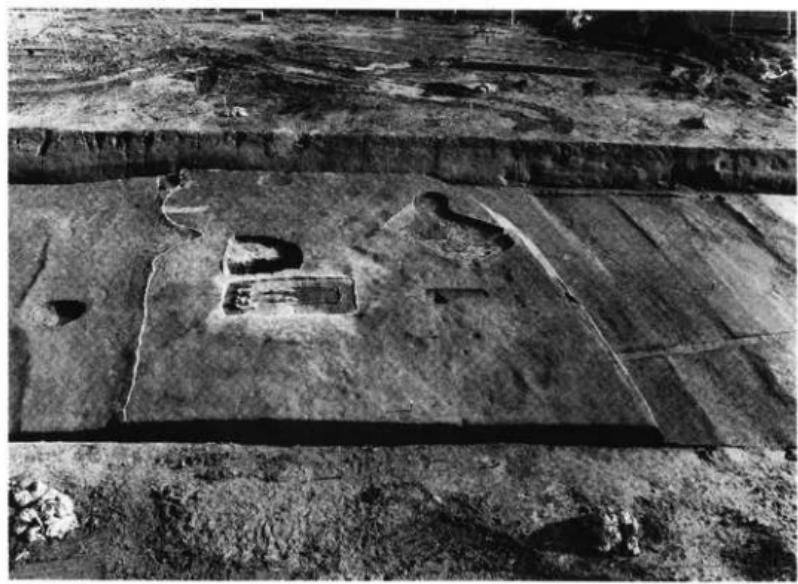
第3次調査第1調査区 第2調査面全景3（北から）



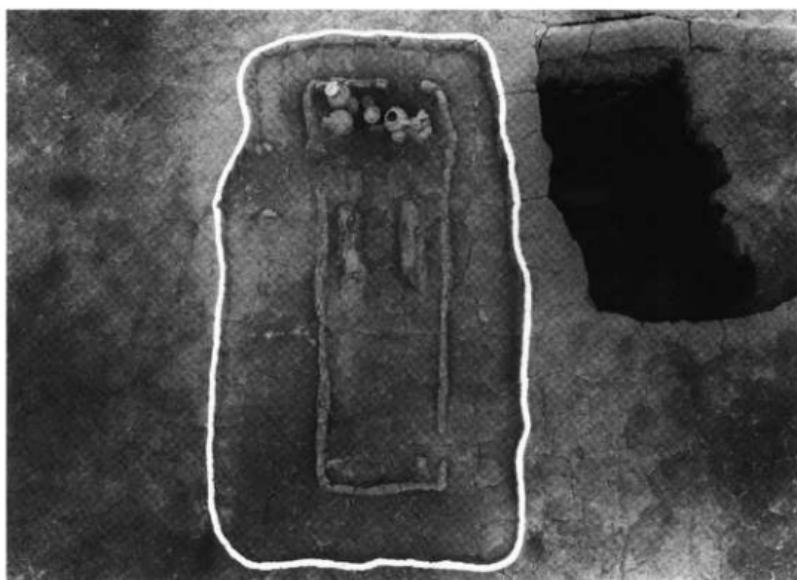
同上 第1調査面 SD-107



第3次調査第2調査区 SX-101 全景1



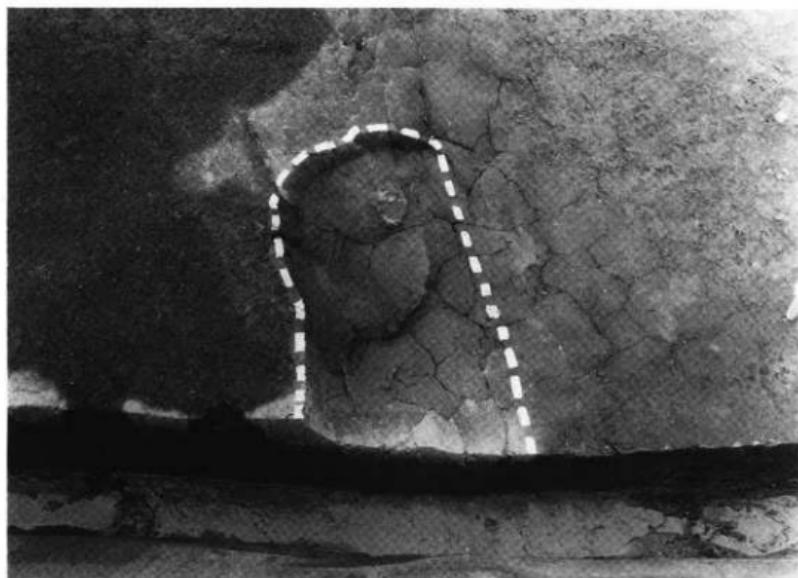
同上 2 (北から)



第3次調査第2調査区 SX-101 埋葬施設1（西から）



同上 遺物出土状況（東から）



第3次調査第2調査区 SX-101 墓葬施設2（南から）



同上 SX-101 墓丘内遺物出土状況（西から）



第3次調査第2調査区 第2調査面 全景1（南から）



同上 2（南から）



第3次調査第2調査区 第2調査面 全景3（南から）



第2調査区 SE-101（東から）



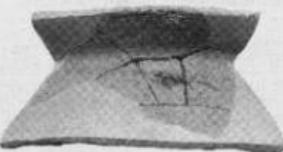
第3次調査第2調査区 SE-202 (南から)



第3調査区 第2調査面 全景 (東から)



3



8



4



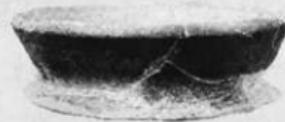
10



5



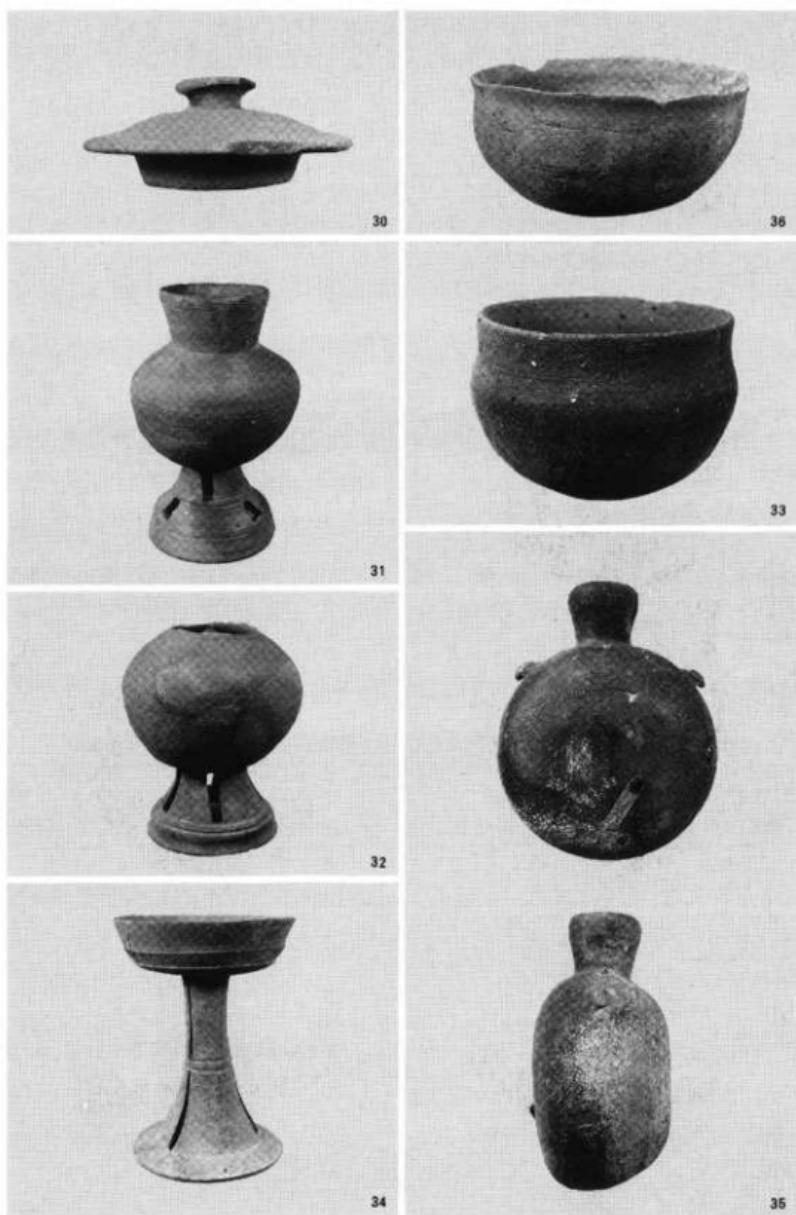
23



7



28





37



38



41



42



39



40



43



49



48



57



64



60



66



69



75



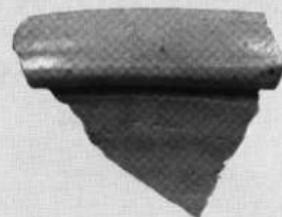
79



76



82



83



77

（財）八尾市文化財調査研究会報告20

萱振遺跡発掘調査概要報告

発行 平成2年12月

編集 財團法人 八尾市文化財調査研究会
〒581 大阪府八尾市清水町1丁目2番1号
電 (0729) 94-4700

印刷 明新印刷株式会社

表紙 レザック66 <260 kg>
本文 書籍用紙 <70 kg>
図版 マットアート <135 kg>

